

令和4年度

中英研會報

第81号

東京都中学校英語教育研究会

令和4年度 ― 行 動 目 標 ―

グローバル化に対応した教育環境づくりを進めるため、国は小・中・高等学校を通じた英語教育全体の抜本的充実を図ろうとしており、社会全体も大きな期待を寄せている。平成29年3月に告示された学習指導要領によって、小学校第3学年から外国語活動が、第5学年から外国語科が導入され、それに伴い、中学校の外国語科も大きな変革が求められることになった。また、中学校においても新しい学習指導要領が昨年度4月から全面実施され、東京都中学校英語教育研究会は、その期待と変革に対応するため、次のような行動目標の下、中学校英語教育のなお一層の充実・発展を目指して活動する。

1. 組織の充実とその活性化を図る。

- (1) 都中英研の活動がより充実したものとなるよう、組織全体の見直しを継続的に行う。
- (2) 都中英研の各種事業により多くの教員や学校が参画できるようにし、その活性化を図る。特に、オンライン会議、オンライン研修等、各種事業でインターネットの積極的な活用も進める。
- (3) 都中英研の諸活動が一層活発に進められるよう、各地区の幹事と連携を密にする。

2. 人材の発掘とその育成に努める。

- (1) 有能な人材を発掘し、リーダー層の育成を図るとともに、英語教員全体の資質向上を推進する。
- (2) 英語教員の資質向上を目指した研修事業を積極的に企画し遂行する。
- (3) 英語教員の育成と研修の充実を目的に、授業研究を一層活発に推進できるよう支援体制を強化する。

3. 英語教育に関わる関係機関や関係団体との連携を強化する。

- (1) 本年度から実施のスピーキングテスト（ESAT-J）を始めとする様々な都の事業に関して、東京都教育委員会と密に連携を図り、東京方式少人数・習熟度別指導の充実を図り、英語が使える生徒を育てる。
- (2) 「東京都小学校外国語教育研究会」、「東京都高等学校英語教育研究会」との情報交換を密に行い、小・中・高等学校の学びを円滑に接続できるようにする。

4. 調査・研究の充実を図る。

- (1) 学習指導要領の趣旨を踏まえながら、組織的な調査・研究を推進する。
- (2) 英語教育に関わる基礎的事項等についての調査活動を行う。
- (3) 英語教育に関わる今日的かつ実践的な課題についての研究活動を行う。特に小学校における外国語活動、外国語科との関連に留意した研究を充実するとともに、GIGAスクール構想による生徒一人1台端末を活用した授業について研究活動を行う。
- (4) 生徒の英語によるパフォーマンスを高めるための取組、特に英語「話すこと [やりとり]」「話すこと [発表]」の評価に関する取組についての調査・研究を推進する。

5. 英語教育に関わる各種情報の収集・発信を進める。

- (1) これまでの広報媒体を活用して、各種情報の発信を行う。
- (2) HP、SNS等の活用を図り、それを通して各種情報の受信・発信を行う。
- (3) 各地区との連携を進め、情報の共有化と相互協力による事業を推進する。

目 次

●東京都の英語教育のさらなる充実と発展を目指して……………	遠藤 哲也… 1
●「やり取り」の力の重要性和育成について……………	和泉 伸一… 2
●東京都教育委員会の取組	
東京都における「グローバル人材育成」……………	西貝 裕武… 4
① Tokyo GLOBAL Student Navi の開設 ……………	堀内 明… 6
②多摩地域における体験型英語学習施設について……………	森田 剛… 7
③生徒の英語によるパフォーマンスを高めるための 授業力向上セミナーの実施……………	早川 裕之… 8
④中学校英語スピーキングテスト (ESAT-J) の結果を活用した 学習改善について……………	関谷さやか…11
●東京都教職員研修センターにおける	
外国語 (英語) に関する研修について……………	関 祐一…14
●令和4年度・第75回英語学芸大会の運営にあたって……………	平岡 栄一…16
実践研究	
(1)英語学芸大会 Play の部 第1位	
“Run, Melos, Run” 走れ! 足立区立第十四中学校2年生! ……………	田中 一成…17
(2)英語学芸大会 Speakingの部 A 第1位	
自分の個性こそ最大の長所に……………	岡 信太朗…18
(3)研究部 令和3年度研究報告……………	前田 宏美…19
(4)教員研究生 報告……………	松野麻里恵…20
(5)第46回関東甲信地区中学校英語教育研究協議会群馬大会	
第1分科会 (東京都代表発表) 報告……………	島田 拓…22
(6)デジタル教科書・ICT機器の活用について……………	橋本 晋作…24
●各部報告	
・総務部報告……………	板垣 繁…26
・事業部報告……………	横山 達也…27
・調査部報告……………	荒川 高広…28
・研究部報告……………	水嶋 諒…29
・プロジェクトチーム部報告……………	佐藤 順一…30
・出版部報告……………	今本由美子…30
●研究大会報告	
・大都市公立中学校英語教育研究会連絡協議会 (神戸大会) ……………	平岡 栄一…31
・全国英語教育研究団体連合会総会 (全英連 佐賀大会) ……………	難波 浩明…32
・関東甲信地区中学校英語教育研究会連絡協議会 (群馬大会) ……………	板垣 繁…33
●各地区の活動状況……………	35
●中英研事業報告……………	61
●中英研会則……………	63
●役員名簿……………	65
●あとがき……………	69

東京都の英語教育のさらなる充実と発展を目指して

会 長 遠 藤 哲 也
(葛飾区立新宿中学校)

本年度の東京都中学校英語教育研究会（以後「都中英研」と略）においては、「学びを止めない」という方針の下、各部会において、様々な感染予防対策を講じながら研修会を開催することができました。また、昨年度の「戦後最大の改革」とも称される新学習指導要領全面実施を受け、「育成すべき資質・能力の3つの柱（『学びに向かう力・人間性など』『知識および技能』『思考力、判断力、表現力など』）」をバランスよく育むための英語の指導方法についての研究をより深めてきました。さらに、「GIGAスクール構想」により配布された一人1台端末に代表されるようなAIやSociety5.0の時代に即した英語の授業についても、各研修会を通して実践事例等を紹介することができたかと思えます。オンライン研修をはじめ、まさに、ICT活用が飛躍的に発展した年度と言えます。

さて、本年度の都中英研の主な事業について、次のとおり報告させていただきます。

年度当初の定期総会については、感染症まん延防止のため書面開催とさせていただきます。各地区幹事を通して各議案について地区ごとに賛否をまとめていただき、6月上旬に決議いたしました。また、役員会をオンラインと参集のハイブリッドにて実施し、円滑な運営となるよう話し合いを重ねました。特に、各地区幹事の皆様におかれましては、御多用のところ御足労いただき感謝申し上げます。

10月、「都中英研だより 第76号」を刊行し、各校に配布させていただきました。都中英研 荒川高広調査部長による「主体的に学習に取り組む態度」の評価についての紙面発表をはじめ、今夏に開催した各部の研修会の詳細を記載させていただきました。都中英研ホームページにもアップしておりますので、お読みいただければ幸いです。

11月、関東甲信地区中学校英語教育研究協議会群馬大会は、感染症まん延防止の観点より群馬県内の教員のみ参加となり、基調提案及び記念講演はオンライン配信となりました。また、県外提案は研究報告書による紙面発表となり、足立区立入谷南中学校 島田 拓主任教諭が、第1分科会「生徒の自主的自立的な学びを生み出す指導と評価の工夫」において発表しました。大会前に開催された各県代表理事会にて、次年度の栃木大会もオンライン開催となることが決定しました。

第75回英語学芸大会は、集合開催およびオンライン開催の二つの方式を並行して開催しました。昨年度より新設したオンライン開催については、10月中旬より11月中旬を応募期間とし、Speaking、Play、Performanceの3部門において1校3エントリーまで参加可とし、ビデオにて審査を行いました。また、集合開催については、12月26日、かめありリリオホールを会場に、Speaking、Playの2部門において、各地区代表に参加いただきました。オンライン開催では、これまで地区として参加していなかった学校や遠方のため集合型では参加が難しかった地区からの参加がありました。また、3年振りに開催された集合型においては、発表者の緊張感がリアルタイムで感じられ、観客から湧き上がる拍手が会場に響き渡り、改めて対面式ならではの魅力を実感できました。

英語教育に関する研究や研修会のさらなる充実を図り、英語教育にかかる国や都をはじめとした様々な動向に注視し、最新の情報も提供させていきながら、東京都の英語教育の発展に寄与して参ります。

最後になりましたが、東京都教育委員会をはじめ、本会の事業に多大なる御尽力を賜りました皆様には心より感謝を申し上げますとともに、今後とも都中英研の活動への御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます、御挨拶とさせていただきます。

「やり取り」の力の重要性と育成について

上智大学外国語学部 教授 和泉 伸一

1 なぜ「やり取り」か？

現行の学習指導要領では、従来の4技能に加えて「やり取り」(Interaction) が加わり、4技能5領域にわたっての英語実践能力を養う必要性が説かれている。本稿では、言葉の学びにおける「やり取り」の意義について確認した上で、その能力を伸ばすために何が必要かについて述べたいと思う。

指導要領では「話すこと」の内容が「発表」と「やり取り」に分かれて示されているが、第二言語習得研究の観点から言うと、「やり取り」は話すことを2分割した“サブエリア”ではなく、中央に位置付けられる最も重要な要因と考えられる(下図参照)。母語習得では、子どもは聞くことから言葉の基礎を学んでいくが、養育者が一方的に話す言葉をただ受け身で聞いている訳ではない。まだ言葉にならない発声をする中で、積極的にやり取りを始めていると言われる。そういった相互交流から徐々に話すことを覚えていく。読むことも一人で勝手に覚えていくわけではなく、最初のうちは読み聞かせなどを通して文字と意味のつながりを学び、少しずつ一人で読める技能を身に付けていく。書く力も同様で、拙くも書いたものを読んでもらい、“通じる喜び”を経験することを通して、その能力を伸ばしていく。Vygotsky (1978)は社会文化理論を提唱する中で、本質的に人の学びは他者との対話から生じ、それが個人に内在化していくものであるとしている。

多少の違いはあるとも、やり取りを通して言葉の学びが進むことは第二言語習得の過程にも当てはまる。しかし、従来の日本の英語教育では、やり取りの力は習得過程というよりも、習得が起こった結果だと見なされてきた。言葉の知識はまずは個人で獲得して、十分に練習を積んだ後で初めて実践応用が可能になると、暗黙の了解がなされてきた。そういった視点から捉えると、現行指導要領に登場した「やり取り」は、従来型の発想を大きく変えるパラダイム・シフトの存在であると言える。

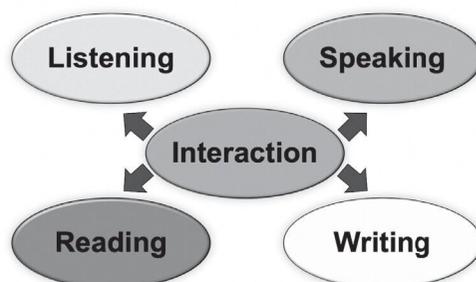


図. 第二言語習得から見た4技能5領域における「やり取り」の位置付け

2 やり取り vs. 発表

教育現場に目を向けてみると、上に記したような「やり取り」の重要性とは裏腹に、これまで強調されてきたのは「発表」の方であった。その理由の一つとして、見栄えの良さが挙げられよう。学習成果として、生徒が皆の前で一人で流暢に発表できると、生徒本人にとっても、教師にとっても高い満足感が得られることであろう。他にも、教えやすさや、やりやすさ、そして評価のしやすさといった理由も挙げられよう。特に、「発表」は準備段階を踏まえることが多いため、即興性が求められる「やり取り」と比べると、その便宜的優位性は明らかである。そのため、やり取りは発表の陰に隠れてしまい、いたずらに難しさだけが強調されてしまい、授業活動として敬遠されがちであった。しかし、やり取りは発表よりも果たして本当に難しいのであろうか。次の例を見ていただきたい。

<やり取りの例>

教師: What food do you like?

生徒: Sorry?

教師: What food do you like? Do you like hotdog, pizza, sushi, or sukiyaki?

生徒: Ahh, sushi, sushi.

教師: Oh, you like sushi?

生徒: Yes, yes, I like sushi.

教師: What kind of sushi do you like?

生徒: Huh?

教師: Do you like tuna, salmon, shrimp, or what?

生徒: I like shrimp.

教師: Do you go to sushi restaurants often? …

このような会話は、教室内だけでなく、ホームステイの際にホストファミリーと交わされることなどもあるだろう。学習者を伴った会話でよく起こる、ごく自然な会話展開である。これに対して、発表はどうか。

<発表の例>

My favorite food is sushi. Especially I like shrimp very much. I often go to conveyer-belt sushi bars with my family…

こう見ると、発表の方がまとめて理路整然とした印象であるが、生徒にとって難易度が高いのはどちらであろうか。両者の習得上の利点と難点は下表にまとめられている通りである。両者一長一短であるが、やり取りの方が言語的な負荷が低いと考えられる点は少なくない。母語習得では、子どもは就学前までにやり取りの力は身に付けているが、発表力は普通、小学校に入学してから学ぶことである。アメリカの小学校で Show & Tell を初めて行う際は、ネイティブの子どもでも緊張するし、最初からうまくできないことも少なくない。そういった観点から考えると、日本の中学校英語教育でも、発表ばかりを優先させるべきではないことは明白であろう。発表はいいが、質疑応答や普通会話となるとしどろもどろになってしまうのは、言語習得の観点から見ると、本末転倒と言える現象である。

	発表	やり取り
利点	<ul style="list-style-type: none">文章の流れやつながりに注目できる。発表の仕方を考え、練習することができる。準備の時間が取れる。	<ul style="list-style-type: none">話し相手との言葉のキャッチボールが楽しめる。話し相手と会話構築の責任分担ができる。自由に会話を発展させられる。
難点	<ul style="list-style-type: none">発表は個人責任となる。文単位で発話しなければならず、文のつながりにも注意する必要がある。人前で一人で行わなければならない。	<ul style="list-style-type: none">即興性が求められる。必ずしも文単位で発話したり、文をつなげて話す必要がない。ターンテイキングをしなければならない。

表. 発表とやり取りの習得上の利点と難点

3 「やり取り」の力を育成するために

やり取りの力を育てるためには、教師は何をすべきか。とにかく授業活動の中で即興の対話活動を多くしていくことが、まず何よりも重要である。最初のうちは必ずしも文単位で話す必要はなく、対話相手と交流して話を継続していくことを主眼としたい。教師がハードルを下げて考え、生徒が話したくなるような題材を用意して、言語的正確さにはこだわらずに、まずは生徒に言葉のキャッチボールの楽しさを感じてもらいたい。同時に、帯活動などを通してストラテジー・トレーニングをすることをお勧めしたい。例えば、相槌の仕方 (I see. Me, too. I know what you mean. Really?), 内容確認の質問 (Sorry? Could you repeat? What do you mean?), 関連質問の付け加え (What kind of …? How about you? When did it happen? Why?) などがある。こういった訓練をチャットなどの活動と絡めて継続して行っていく中で、最終的に発表力につながる力を徐々に、着実に育成していただきたい。もちろん、二つの活動をつなげて、やり取りから発表へ、あるいは発表からやり取りへ、更には書いてまとめるといった活動までどんどん発展させていけるであろう。要は、教師の発想力と「遊び心」次第である。

東京都における「グローバル人材育成」

東京都教育庁指導部国際教育推進担当課長 西貝 裕武

1 「グローバル人材育成」の推進

東京都教育委員会は、平成30年に策定したグローバル人材育成の目標の設定とその目標達成への手段を明確にした「東京グローバル人材育成計画'20（Tokyo Global STAGE '20）」により、英語教育や国際教育の充実を推進してきた。

その結果、生徒及び教員の英語力の向上のみならず、学校における学習環境や交流機会の拡大・充実といった成果を挙げている。

2 東京都が目指すグローバル人材育成

現在、様々な分野でグローバル化が進展している。私たちの身近なところでも進んでいる。東京に暮らす全ての人々が多様な文化を受け入れ、分け隔てなく自己の能力を発揮できる社会を作り上げていく必要がある。これはまた、年齢、国籍、文化の違いや障害の有無に関わらず、あらゆる人々が互いの人権を尊重し合い、共に力を合わせて生活する共生社会を実現していくことでもある。

このため、これからの時代を生きるこれからの子供たちには、自己を確立しつつ、他者を受容し、多様な価値観をもつ人々と協力・協働しながら課題を解決する力が求められる。また、多くの外国の人々と交流する機会が増えていく中、自らすすんで積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度や豊かな国際感覚を醸成する必要がある。

3 「東京都グローバル人材育成指針」

令和4年3月に、都内公立小学校、中学校、高等学校、及び特別支援学校において、グローバル人材育成に向けた取組を推進していくためのポイントを示した「ガイドライン」となる「東京グローバル人材育成指針」を策定した。

■主な内容

- 学校において学習・教育活動を進める上での考え方
- 小・中・高等学校を通して育成したい資質・能力
- 期待される子供たちの姿（資質・能力）
- グローバル人材育成の視点からの教科横断的な取組例
- 中学校英語スピーキングテストやTOKYO ENGLISH CHANNELなど、授業等で活用できる東京都の施策

東京グローバル人材育成指針

東京型グローバル人材育成モデルの
実現に向けたガイドライン

令和4年3月
東京都教育委員会

小・中・高等学校を通して育成すべき資質・能力を4つの TARGET として設定し、主体的に学び続ける態度と総合的な英語力の育成を基盤としながら、各 TARGET を相互に連携させた教育を推進していくことを目指している。

4 4つの TARGET による東京型グローバル人材育成モデルの設定

■ 4つのTARGET

【TARGET 1】主体的に学び続ける態度と総合的な英語力の育成

【TARGET 2】国内外の課題を解決する創造的・論理的思考力の育成

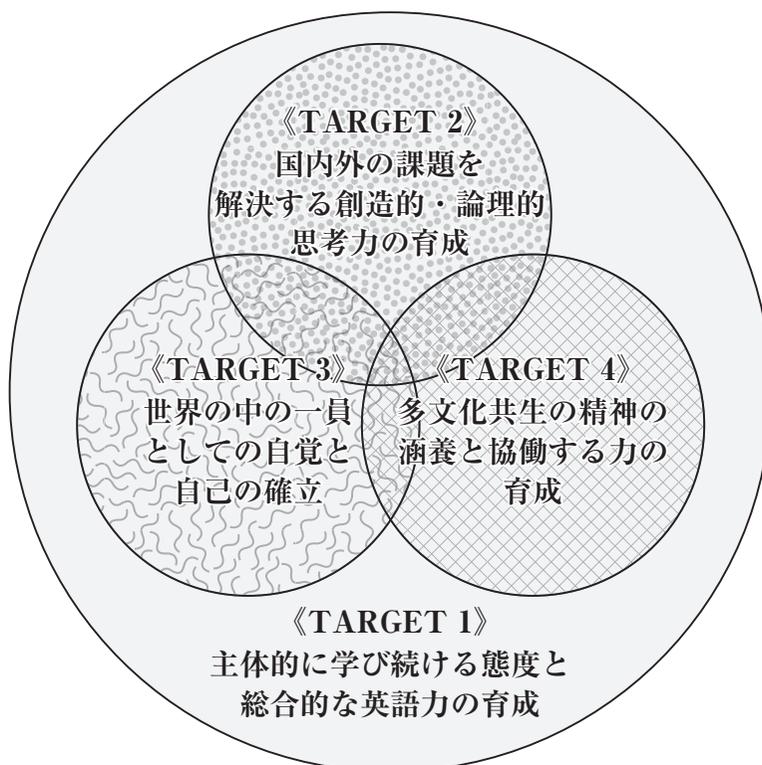
【TARGET 3】世界の中の一員としての自覚と自己の確立

【TARGET 4】多文化共生の精神の涵養と協働する力の育成

下の図は、4つを構造化したものである。図で示す最も大きいサークルは、TARGET 1の「英語力・主体性」を示している。これを基盤として、TARGET 2「創造性、論理力、思考力」、TARGET 3「自己の確立」、そして TARGET 4「多文化共生」を育成する。

TARGET を育成するためのアプローチとしては、まずは学校での取組がある。学校での取組をさらに充実させるために、東京都教育委員会のグローバルに関する施策を学校での取組と関連させてグローバル人材を育成していくことを示す体系が、「東京型グローバル人材育成モデル」である。

小学校から高等学校まで、一貫して4つの TARGET の育成を目指し、「世界を視野に新しい時代を切り拓く人材」を育成していく。



【4つのTARGET のイメージ図】

次頁より、グローバル人材を育成するための東京都教育委員会の取組を紹介する。

Tokyo GLOBAL Student Naviの開設

東京都教育庁指導部 主任指導主事 堀内 明

東京都教育委員会では、令和4年度グローバル人材を育成するための取組を開始した。「Tokyo GLOBAL Student Navi」、「体験型英語学習施設TGG GREEN SPRINGS」である。ここでは、「Tokyo GLOBAL Student Navi」について紹介する。

1 Tokyo GLOBAL Student Naviの開設

いつでも、どこでも、誰でも、生きた英語に触れられる、英語教育・国際教育に関するポータルサイト「Tokyo GLOBAL Student Navi」を令和4年12月26日に開設した。本ポータルサイトは、グローバル人材育成に係る取組を広く周知し、活用を促進することを目的としている。

2 Tokyo GLOBAL Student Naviの特長

本サイトは、東京都教育委員会がこれまで作成してきた様々な映像教材をオンデマンド化して集約するポータルサイトで、「英語の力を伸ばしたい人」や「塾等を使用せず、お金をかけず、自分のペースで勉強したい人」など、様々な目的を有する学習者の学びを支援する。



TGGキャラクター
「EVERYWAN」が
サイト内でナビ

児童・生徒だけでなく、就学前から高校卒業後のリカレント教育まで、幅広く活用いただけるよう、利用者別・利用目的別にコンテンツを整理しており、必要な情報に誰でも簡単にアクセスすることができる。

また、「検索専用ページ」や「チャットボット」を使って、自分に合った教材や情報をすばやく見つけることも可能である。

さらに、都立学校の英語教育や国際交流の取組、都立学校の卒業生や著名人からのメッセージを紹介する動画を新たに作成し、本ポータルサイトに掲載している。

児童・生徒の英語学習や国際交流に関する意欲を喚起し、興味・関心に応える次のような情報を集約している。

- ア 東京都教育委員会がこれまでに制作した、無料で使えるオンライン英語学習教材
- イ 都立学校の取組の様子や、都立学校の卒業生及び著名人からのメッセージを紹介する動画等

動画には、元プロ卓球選手で東京オリンピック金メダリストの水谷 隼さんや、俳優の河北 麻友子さんも登場し、グローバルに活躍するための秘訣や、英語習得の楽しさについて、お話いただいている。

「Tokyo GLOBAL Student Navi」は、皆さんの興味や関心に沿った情報までナビゲートする。是非御活用いただきたい。

<https://global-navi.metro.tokyo.lg.jp/>



多摩地域における体験型英語学習施設について

東京都教育庁指導部 主任指導主事 森田 剛

東京都教育委員会では、平成30年9月に民間事業者と共に青海に開設した東京都英語村TOKYO GLOBAL GATEWAY（TGG）において、学校からの移動距離の長さを主な要因として多摩地域の学校の利用が限定的であることを踏まえ、同様の体験型英語学習施設を多摩地域にも整備することとし、令和5年1月16日に開設した。本施設は、TGGの特長を活かしながら、多摩地域の特色も踏まえ、児童・生徒が英語を使用する楽しさや必要性を体感でき、英語学習の意欲向上のきっかけ作りとなる魅力ある施設となっている。

(1) 施設名称

TOKYO GLOBAL GATEWAY GREEN SPRINGS

(2) 所在地

GREEN SPRINGS（E1棟4階及びW2棟3階）立川市緑町3番1

※JR中央線立川駅より徒歩8分、多摩モノレール立川北駅より徒歩4分

(3) 施設やプログラムの特長

- デジタル技術を活用し、海外や未来を感じる空間や場面を演出
- 多摩地域の自然をテーマにしたプログラムの開発
- 体験的な英語学習を通じ、英語を使う楽しさや必要性を体感
- 英語漬けの海外のような空間・施設で成功体験を創出
- グループ（原則8名）に1名のイングリッシュスピーカーが付き、児童・生徒の発話を促す。



デジタル技術での演出

(4) プログラムの例

- レベルに応じたミッションに、英語「を」使って挑戦するアトラクションシーン
（例）・飛行機内 ・レストラン ・ホテル ・病院 等



アトラクションシーン

- 多様なテーマを、英語での議論やグループワーク等を通じて、英語「で」学習するアクティブイマージョンシーン
（例）・木のひみつ ・水の循環 ・東京の魅力紹介 ・プログラミング 等

本施設は、立川駅から徒歩圏内のアクセスのよい便利な場所にあり、特に多摩地域の学校は利用しやすくなる。

多摩地域の学校に限らず、多くの学校にぜひご利用いただきたい。

生徒の英語によるパフォーマンスを高めるための 授業力向上セミナーの実施

東京都教育庁指導部義務教育指導課 統括指導主事 早川 裕之

義務教育指導課では、小・中学校外国語について、指導資料の作成・配布をはじめとした情報発信等、学習指導要領に基づく授業改善に向けた様々な取組を行っている。本年度、中学校の授業改善に向けた取組としては、昨年度に引き続き「生徒の英語によるパフォーマンスを高めるための授業力向上セミナー」を行った。

本セミナーは年3回実施しているものであり、学習指導要領で求められる「言語活動」を主軸とした指導について、指導教諭等による授業実践映像の視聴とその説明、工夫点などを学び、受講者同士による協議等を通じてその学びを深めていくなど、実践的な内容で構成している。本年度は、各回のテーマを以下のとおり設定した。

- [第1回]：「書くこと」における指導と評価の実際
- [第2回]：「話すこと [やり取り]」、デジタル教科書・ICTの活用
- [第3回]：「話すこと [発表]」、学習の見通しと振り返り

本セミナーは、同じ学校から複数の教員の参加や、昨年度からのリピーターの参加など、非常に好評を得ている。本稿においては、直近の第2回において実施した内容を、その雰囲気がお伝えできるよう紹介したい。

【第2回セミナーの実施内容】

研修開始前

- 研修動画「はじめての学習者用デジタル教科書～中学校・外国語編～」（文部科学省 令和4年3月）の上映
 - ・ デジタル教科書の機能と学習場面ごとの効果的な活用について紹介



デジタル
教科書
研修動画

1 東京都教育委員会挨拶

指導部主任指導主事 窪田 香

- 今回のテーマ「話すこと [やり取り]」について
 - ・ 「話すこと [やり取り]」の力の育成には、生徒が実際に英語を用い、意味のある文脈の中で思考・判断・表現しながら、繰り返し既習事項を活用し自分のものにしていくことが重要である。日々の授業で「言語活動」を充実させていけるよう、本日の研修を活用してほしい。

2 「話すこと [やり取り]」の指導の充実に向けて

指導部義務教育指導課統括指導主事 早川 裕之

- 「話すこと [やり取り]」の活動について
 - ・ 学習指導要領では「授業は英語で行うことを基本とする」とされている。「話すこと [やり取り]」の活動を充実させていくためには、教師が英語で授業を行い、教師と生徒、生徒同士の英語によるやり取りを日常的に行っていくことが必要である。
 - ・ 教師と生徒による英語でのやり取り、帯活動を活用した生徒同士のチャット活

動の継続的な実施など、具体的な事例を用いて解説したものには「生徒の英語によるパフォーマンスを高めるための指導資料」（東京都教育委員会 令和2年1月）がある。



パフォーマンス
指導資料

○ デジタル教科書・ICTの活用について

- 外国語科におけるデジタル教科書活用の利点として、音声読み上げ機能を活用した発音練習が挙げられる。個人のペースで、正しい発音を繰り返し練習させるなど、生徒の発話の質の向上に生かすことができる。国の研修動画を参考にするとよい。

（前ページの二次元コード参照）

- ICT機器は、「児童の興味・関心をより高め、指導の効率化や言語活動の更なる充実を図るようにする」ことを意識して活用する。具体的な活用の事例は、国の「外国語の指導におけるICTの活用について」を参考にするとよい。



外国語の指導
におけるICTの
活用について

3 授業公開（授業者による解説、第3学年の11月に実施した授業映像の視聴）

渋谷区立松濤中学校 主幹教諭 橋本 晋作

○ 授業デザインについて

☞ 本時（7時間中の第1時）では、生徒が単元の目標を理解し、その達成のために必要なことを考え、見通しをもてるようにするため、単元末に実施するパフォーマンステストで行うやり取りを、あえて第1時に即興で体験させるようにしている。目標を意識付けるとともに、単元の最後に自分の成長が感じられるようにしている。

☞ 3年間を見通しながら、卒業時のゴール、各学年のゴール、単元のゴールと逆算して計画している。各授業においても同様に、単元のゴールに向けて、1時間ずつの授業を逆算してデザインしていくこと（バックワードデザイン）が大切である。

○ 授業映像の視聴

[橋本主幹教諭による第3学年の授業を視聴]

○ 指導の工夫について

☞ All Englishの授業を行う際、「Simple・Short・Clear」、ジェスチャー・視聴覚教材の活用を意識している。

☞ ICTを活用することで、生徒の興味・関心を喚起するだけでなく、板書の時間を省くことにより、練習・言語活動時間の確保につなげている。また、振り返りにおいては、言いたかったけれど言えなかった表現等をタブレットで入力させ、その内容を一覧化するとともに、共通するものを中心に次の授業でフィードバックすることで、生徒がやり取りの際に使えるようにしている。

☞ デジタル教科書は、各生徒の習熟度に合わせた音読練習をさせたり、課題として自宅で録音したベストな音源を提出させたりする際に活用している。

☞ ファシリテーターとしての役割（明確な指示と発問、フィードバック等）を意識して授業を運営している。

4 協議

[テーマについて、参加者が「3 授業公開」を参考に自分の指導を振り返り、グループで共有するとともに、相互にアドバイスを実施]

5 協議のまとめ（指導教諭等によるテーマに関する実践事例紹介）

中野区立中野東中学校 指導教諭 井上 智絵

㊦ 「話すこと [やり取り]」の力の育成に向けて、帯活動としてQ&A活動、Chat活動を実施している。これらの活動の指導例や指導の工夫、印刷して活用可能なワークシートや表現集、Chat活動のトピック一覧は、「生徒の英語によるパフォーマンスを高めるための指導資料」（「2 『話すこと [やり取り]』の指導の充実に向けて」の二次元コード参照）に掲載されているので活用してほしい。

葛飾区立立石中学校 主幹教諭 河野 光志

㊦ 生徒のやり取りの力を育成するため、それぞれ、様々な実践を行っていると思うが、やり取りを継続させるためには、自分が発信してばかりでは難しいと考えている。「発信する力」とともに「質問する力」が大切である。そこで、相手の発言に合わせて「質問する力」を鍛える基礎的な練習のため、従来の「Q→A」から、「A→Q→A」のように相手の発言に合わせて質問する練習を取り入れている。

福生市立福生第二中学校 指導教諭 寺沢 陽子

㊦ ICTの活用というと、「トラブルが起きるのではないか」など、不安やネガティブなイメージをもつ人が多いかもしれないが、まずは、授業でICTを活用できる場所・場面を見付け、それを増やしていくのはどうだろうか。

㊦ ICTを活用し、振り返りシート等をデジタル化することの利点は、共有（みんなで取り組むという意識の醸成）、時短（いつでもどこでも振り返りができる、即座に生徒にフィードバックして授業改善に生かせる）、紛失しない（例えば、振り返りシートを持っていないから振り返りができない、ということを防げる）という点である。

6 指導・講評 文部科学省初等中等教育局外国語教育推進室

教科調査官 入之内 昌徳

- 東京都における中学校外国語科の現状
 - ・ 令和3年度「英語教育実施状況調査」（文部科学省）で、東京都は、CEFR A1レベル相当（英検3級程度）以上を達成した生徒の割合が54.4%、CEFR B2レベル（英検準一級程度）以上を取得した英語担当教師の割合が61.7%、50%程度以上の発話を英語で行っている教師の割合が81.7%と、いずれも全国平均を大きく上回っており、教師・生徒がともにとても努力されている様子が伺える。
- 指導と評価の一体化に向けて
 - ・ 卒業段階での学習到達目標、各学年の学習到達目標、各単元の目標、各時間の目標を関連付け、それぞれ段階的に達成していく指導計画としていく必要がある。
 - ・ 言語活動を通して生徒の資質・能力を育成する観点から、単元の指導計画を作成する際には、単元末に設定している言語活動につながる活動に、単元を通して繰り返し取り組ませる必要があることに留意する。

外国語指導の方法は、先生方の持ち味によって様々ではある。しかし、「言語活動」を中心とした授業を行うという点については、学習指導要領に示されているとおり、どの先生方も共通して目指さなければならないものである。本セミナーが、「言語活動」を中心とした授業を実現するための様々な指導法を提示する機会となり、先生方の指導を充実させることにつながることを、心より願っている。

- 井上指導教諭、寺沢指導教諭は、「指導教諭による模範授業等」で授業公開を行っている。（東京都教職員研修センターのマイ・キャリア・ノート「研修受講申込受付システム」参照）
- 井上指導教諭の授業は、文部科学省 mextchannel「外国語教育はこう変わる！」において紹介されている。



文部科学省
mext
channel

中学校英語スピーキングテスト(ESAT-J) の結果を活用した学習改善について

東京都教育庁指導部指導企画課 統括指導主事 関谷 さやか

東京都教育委員会は、小・中・高等学校をとおした英語教育を推進する取組の一環として、中学校英語スピーキングテスト（ESAT-J）を実施している。本事業は、中学校及び高校の授業改善を図り、中学校の授業で学んだ内容の定着を確認し、義務教育での学びを高校への学びへと繋げることを目的としている。

1 中学校英語スピーキングテスト(ESAT-J)スコアレポート

テスト実施後は、生徒が今後の学習の見通しがもてるように、次の(1)～(3)の内容が表示されたスコアレポートを返却している。

(1) 今回の結果

スコア（上限100）、ESAT-J GRADE（A～Fの6段階）及び参考CEFRレベル

(2) ESAT-J GRADE Can-Do Statements

判定されたESAT-J GRADE における英語「話すこと」において、できることを示す。

<ESAT-J GRADE 各レベルのCan-Do Statements>

ESAT-J GRADE	得点域	can-do statements
A	80～100	身近な話題について、相手と意見交換ができる。 まとまりのある内容を話したり、自分の考えや理由、具体例を話したりすることができる。 順序立てて分かりやすく相手に伝えることができる。
B	65～79	相手のことについて質問したり、自分のことについて質問に答えたりすることができる。 身近な話題について自分の考えと理由を具体的に話すことができる。 文を組立てながら複数の文を使って話すことができる。
C	50～64	相手に話しかけたり、自分のことについて質問に答えたり、自分の考えと理由を話したりすることができる。 文を組立てながら話すことができる。
D	35～49	自分のことについて質問に答えたり、自分の考えを話したりすることができる。 特有の場面で用いられる定型表現や簡単な語句などを用いて話すことができる。
E	1～34	自分のことについて質問に答えたり、話したりすることができる。 特有の場面で用いられる定型表現や基本的な単語などを用いて話すことができる。
F	0	英語で話そうとしても伝わらないことが多い。

(3) 学習アドバイス

「話すこと」の力をさらに伸ばすためのポイントや身に付けておくとよい力、それらの力を身に付けるための具体的な練習内容を記載している。

2 中学校英語スピーキングテスト(ESAT-J)スコアレポートに係る補助資料

東京都教育委員会では、令和4年度のESAT-Jの結果を生徒や先生方に活用していただくために、次の2点をスコアレポートに係る補助資料として、令和5年1月に中学校にデータにて送付した。

■ 令和4年度中学校英語スピーキングテスト(ESAT-J)各パートにおける解答例

本資料では、ESAT-Jの解答例と、各回答の採点結果及び採点のポイントを紹介している。資料は、実際の回答音声を参考に作成し、解答例には誤りのある文や語句を含んでいるが、実際の採点においても、採点基準に従って、「で

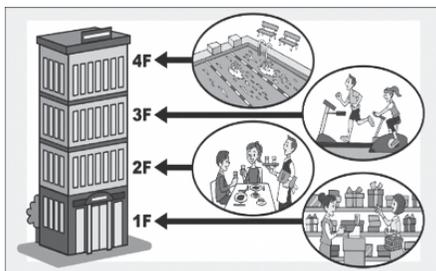
きていること」を評価していることを示している。

生徒には、自分の回答に近い解答例と、その他のグレードの解答例や採点結果と比較しながら、よりよく相手に伝えるためには、どのようなことに気を付け、どのような表現を使えばよいかなどを考え、英語力向上のための参考にしてもらいたい。

先生方には、各パートにおける解答例から、内容面や言語面でモデルとなる様々な表現を生徒と共有していただきたい。そのことにより、生徒が新しい表現を学んだり、共通の誤りを確認したりすることができる。

資料の一部を紹介する。

右のイラストは、Part B No.1 留学生からの質問を聞いて、応答する問題である。このPartでは「コミュニケーションの達成度」の観点で、2段階で評価している。単語や語句のみの回答でも、コミュニケーションの目的を達成している場合には評価される。



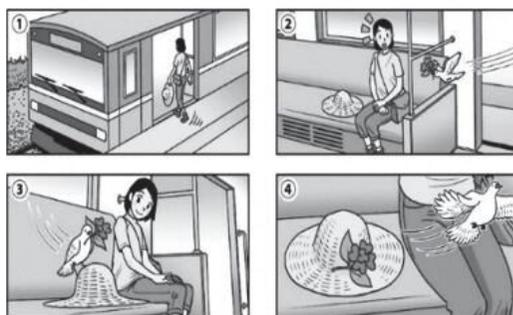
Question: Which floor is the restaurant on?

<Part B No.1より抜粋>

	解答例	コミュニケーションの達成度	採点のポイント
1	(It's on) the second floor. / Second.	○ (1)	(レストランが) 2階であると応答できている。
2	The floor two.	○ (1)	
3	(It is) second floors.	○ (1)	
4	Two floors. / Two floor.	× (0)	質問への応答の内容が誤っている(「2階」とは異なる意味になっている)。

右のイラストは、Part Cストーリーを英語で話す問題で、次の3つの観点で評価している。

- 「コミュニケーションの達成度 (1コマめから4コマめのそれぞれのイラストの内容[事実]を伝えることができるか)」の観点で、それぞれ2段階で評価
- 「言語使用」の観点で、5段階で評価
- 「音声」の観点で、4段階で評価



<Part Cより抜粋>

(Part 1と同様の採点基準を用いる)

資料で掲載されている6つの解答例のうち、以下2つを紹介する。

	解答例	コミュニケーションの達成度				言語使用		
		採点のポイント	①	②	③	④	採点のポイント	採点
2	①Yesterday, I took the train. ②After that, I--- the bird--- the bird --- ③The bird took a hat with --- ④And it dropped the flower and went somewhere.	①私が電車に乗ったことが分かる。 ②電車の中に鳥が「入った」ということが分かる。	○ (1)	× (0)	× (0)	× (0)	<ul style="list-style-type: none"> 簡単な接続詞を使って、簡単な描写を羅列することができる。 使用している語彙・表現や文法の幅が限られている。 	○ (2)
3	①Yesterday, first, --- train at the station. ②And, a bird flew into the train. ③And sat--- sat on my hat. ④After that, the bird put a flower on my -- and bird there.	③(花を持った)鳥が帽子の上に乗ったことが分かる。 ④鳥が花を置いて飛んで行ったことが分かる。	○ (1)	× (0)	× (0)	○ (1)		○ (2)

■ 英語力アップのためのアドバイス

こちらの資料では、結果を基に、英語力アップに向けた学習方法やおすすめの教材を紹介している。授業の受け方や家庭での学習の方法などを工夫して継続して取り組むことで、英語力をさらに向上させていただきたい。

英語力アップのためのアドバイス

令和 5 年 1 月
東京都教育委員会

ESAT-J の結果を基に、みなさんの英語力アップに向けた学習方法やおすすめの教材を紹介します。授業の受け方や家庭での学習の方法などを工夫して取り組むことで、英語力をさらに向上させていくことができます。



TGS…TokyoGlobalStudio, WtT…Welcome to Tokyo

今回の結果	英語でできること You can!	目指すこと You will be able to …	学習方法の例 You should try!	おすすめの教材		
				TGS	「話すこと」 トレーニング	WtT
A	<ul style="list-style-type: none"> 身近な話題について、相手と意見交換ができる。 まとまりのある内容を話したり、自分の考えや理由、具体例を話したりすることができる。 順序立てて分かりやすく相手に伝えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な話題や社会的な話題について、相手と意見交換ができる。 情報や考え、気持ちなどを伝えるときには、理由や根拠を明らかにするなど、まとまりのある内容を伝えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ニュースなどで見聞きした内容について、よい点や問題点などについて考え、英語の先生に話してみるなど、英語で話す機会を増やしましょう。 授業で聞いたり読んだりした内容について、1分間話し続ける練習をしてみましょう。 複雑な内容を伝えたり即興で話したりする時でも、つなぎ言葉なども使いながら安定して話し続けることを意識しましょう。 	 https://www.tec.metro.tokyo.lg.jp/	 https://www.tec.metro.tokyo.lg.jp/materials/jh_training/	Inter-mediate https://www.tec.metro.tokyo.lg.jp/materials/wtt_intermediate/
B	<ul style="list-style-type: none"> 相手のことについて質問したり、自分のことについて質問に答えたりすることができる。 身近な話題について自分の考えと理由を具体的に話することができる。 文を組立てながら複数の文を使って話すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な話題について、相手と意見交換ができる。 まとまりのある内容を話したり、自分の考えや理由、具体例を話したりすることができる。 順序立てて分かりやすく相手に伝えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な話題（学校や住んでいる街、日常生活のこと）について、英語でどう説明すればよいかを考え、話してみましょう。 授業で聞いたり読んだりした内容について、自分の意見とそう考える理由を自分の体験を交えて話してみましょう。 	 Inter-mediate	 Stage 3 Inter-mediate Basic	
C	<ul style="list-style-type: none"> 相手に話しかけたり、自分のことについて質問に答えたり、自分の考えと理由を話したりすることができる。 文を組立てながら話すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手のことについて質問したり、自分のことについて質問に答えたりすることができる。 身近な話題について自分の考えと理由を具体的に話することができる。 文を組立てながら複数の文を使って話すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りの出来事について英語でどういえばよいかを考え、英語で話してみましょう。 授業で聞いたり読んだりした内容について、自分の意見とそう考える理由を話してみましょう。 接続詞等 (Then, after that, because, when など) を使って、話してみましょう。 	 Basic	 Stage 2 Basic	
D	<ul style="list-style-type: none"> 自分のことについて質問に答えたり、自分の考えを話したりすることができる。 特有の場面で用いられる定型表現や簡単な語句などを用いて話すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手に話しかけたり、自分のことについて質問に答えたり、自分の考えと理由を話したりすることができる。 文を組立てながら話すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手にして知りたいことを質問したり、質問に答えたりして会話を続けましょう。 質問に答えるときは、答えにもう1文付け加えて答えましょう。 意見を言うときは、その理由を付け加えて話しましょう。 	 Basic	 https://www.tec.metro.tokyo.lg.jp/materials/wtt_basic/	
E	<ul style="list-style-type: none"> 自分のことについて質問に答えたり、話したりすることができる。 特有の場面で用いられる定型表現や基本的な単語を用いて話すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分のことについて質問に答えたり、自分の考えを話したりすることができる。 特有の場面で用いられる定型表現や簡単な語句などを用いて話すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手にして知りたいことを質問したり、質問に答えたりして会話を続けましょう。 教科書に出てくる表現を、繰り返して練習してみましょう。 	 Elementary	 Stage 1 Basic Elementary	
F	<ul style="list-style-type: none"> 英語で話そうとしても伝わらないことが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分のことについて質問に答えたり、話したりすることができる。 特有の場面で用いられる定型表現や基本的な単語を用いて話すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 音声聞いて、真似をして発音してみましょう。 相手が何を尋ねているか、最初の単語に注目してみましょう。 あいさつや決まった表現などを覚えて使ってみましょう。 	 Elementary Beginner	 Elementary Beginner	

東京都教職員研修センターにおける 外国語（英語）に関する研修について

東京都教職員研修センター研修部専門教育向上課 統括指導主事 関 祐一

東京都教職員研修センターでは、都内の公立中学校（都立中学校、中等教育学校、義務教育学校、特別支援学校を含む）の英語科の先生方を対象に、指導力向上と英語力向上の二本立てで専門性向上研修を実施しております。

令和4年度に実施した中学校の先生方を対象とした研修・講座を以下のとおり御紹介します。

1 指導力向上を目指した研修【文部科学省教科調査官等の外部講師を招聘した研修】

(1) 英語Ⅱ・Ⅲ（小・中・特 応用）

「小学校外国語科から中学校外国語科への授業づくり

－小中の学びのつながりを意識した外国語科の指導－

小学校から中学校までの系統的な指導の在り方について学び、小学校及び中学校の外国語科の指導に関する理解を深めます。

〔講師〕文部科学省 初等中等教育局 視学官 直山 木綿子 先生

(2) 英語Ⅱ・Ⅲ（中・高・特）

「中学校・高等学校外国語科の授業づくり

－グローバル化に対応した実用的な英語力を身に付けさせる指導の工夫－

生徒の4技能を養い、コミュニケーションを図る資質・能力を育成する指導の工夫について学び、自身の授業改善を図ります。

〔講師〕一般財団法人実用英語推進機構 代表理事 安河内 哲也 先生

[5151][5152] 英語【Ⅰ・Ⅱ】（小・中・特）		【対象】 小・中・特 200名	
5151と5152は 同一研修です		小学校外国語科から中学校外国語科への授業づくり －小中の学びのつながりを意識した外国語科の指導－	
[5151]	第1回 9月15日（木）	集合研修	講義・演習 実践発表
[5152]		オンライン研修 （ライブ配信）	
		講師 文部科学 視学官 直山木綿子先生	
[5161][5162] 英語【Ⅱ・Ⅲ】（中・高・特）		【対象】 中・高・特 200名	
5161と5162は 同一研修です		中学校・高等学校外国語科の授業づくり －グローバル化に対応した実用的な英語力を身に付けさせる指導の工夫－	
[5161]	第1回 9月12日（月）	集合研修	講義・演習
[5162]		オンライン研修 （ライブ配信）	
		講師 実用英語推進機構 代表理事 安河内哲也先生	

2 英語力向上を目指した研修【外部委託者所属の外国人講師等による研修】

(1) 「日本の伝統・文化を英語で紹介しよう（中・高・特）

－デジタル機器とオンラインツールを活用した国際交流－

外国人講師に日本の伝統・文化を英語で紹介、一人1台端末を活用した交流体験

(2) 「英語力UP！ 集中講座（小・中・高・特）

－問題演習や講師との模擬面接を通して－

外国人講師等の英語による講義・演習を通して、コミュニケーションに必要な英語力を高めます。（4技能を高めるとともに、検定取得に向けた講座）

日本の伝統・文化を英語で紹介しよう 【対象】 中・高・特
【定員】 20名
－デジタル機器とオンラインツールを活用した国際交流－

◎外国人講師に、日本の伝統・文化を英語で紹介
◎一人1台端末を活用した交流体験

研修番号		第1回	第2回
5241	研修日	10/6（木）	10/13（木）
	研修形態	集合	集合
	会場	浅草周辺	教職員研修センター（水道橋）
	内容	フィールドワーク	端末を使用しての交流体験



英語力UP！ 集中講座 【対象】 小・中・高・特
【定員】 各講座 20名
－問題演習や講師との模擬面接を通して－

◎4技能を高めるとともに、検定取得に向けた講座

研修番号	目標とする検定級等	研修日	研修形態
5251	『英検準2級』	8/1（月）	集合
5252		8/8（月）	
		8/29（月）	
5253	『英検2級』	8/3（水）	集合
		8/10（水）	
		8/29（月）	
5254	『英検準1級』	8/3（水）	オンライン
8/10（水）			
8/30（火）			
5261	『英検準1級』	8/5（金）	集合
5262		8/17（水）	
		8/31（水）	
5263	『TOEIC730点』	9/7（水）	集合
		9/20（火）	
		10/3（月）	
5264	『TOEIC730点』	8/3（水）	オンライン
		8/10（水）	
		8/30（火）	
5265	『英検1級』	9/5（月）	オンライン
		9/22（木）	
		10/7（金）	
5266	『英検1級』	8/5（金）	集合
		8/17（水）	
		8/31（水）	
5267	『TOEIC860点』	9/7（水）	集合
		9/20（火）	
		10/3（月）	
5268	『TOEIC860点』	8/3（水）	オンライン
		8/10（水）	
		8/30（火）	
5268	『TOEIC860点』	9/5（月）	オンライン
		9/22（木）	
5268	『TOEIC860点』	10/7（金）	オンライン

3 令和5年度の専門性向上研修について

令和5年4月以降、東京都教職員研修センターHPに掲載される「研修案内」又は「マイ・キャリア・ノート」を御覧ください。

令和4年度・第75回英語学芸大会の運営にあたって

副会長 事業部担当 デジタル担当 葛飾区立亀有中学校長 平岡 栄一

1 ここ3年間の開催方式について

東京都中学校英語教育研究会の看板行事の一つである英語学芸大会は毎年12月に開催されており、今年度は第75回大会を実施しました。

都内中学校の体育館等を会場として400～500名が集合して開催されていた本大会ですが、令和2年度においては新型コロナウイルス感染症の拡大により集合開催が困難となりました。そこで代替としてインターネットを利用して動画を提出するオンライン開催（ビデオ審査）としました。令和3年度においては、感染が収束する見込みのもと「かめありリリオホール」（JR亀有駅前）での集合開催およびオンライン開催の2本立てで、別の大会として予定しましたが、令和3年9月の感染状況によりオンライン開催に一本化しました。

令和4年度においては、当初より2本立てで計画し、集合方式およびオンライン方式とも皆様のおかげと事業部員の熱意により予定どおり開催することができました。

2 集合開催、オンライン開催について

集合開催は「かめありリリオホール」で実施しました。各区市町村の代表の1校または1名が参加します。Speaking A、Speaking B、Playの3つのカテゴリーがあります。Speaking Aは1位～2位、Playは1位～3位を表彰します。Speaking Bの表彰はありません。

オンライン開催は、Google Suiteを使用して実施しました。各学校から最大3つまでエントリー可能としています。Speaking A、Speaking B、Play、Performanceの4つのカテゴリーがあります。Speaking AとB、Playはそれぞれ1位～3位までを表彰します。またPerformanceは順位付けは行いませんが、優れた作品を表彰しています。

◇ 集合開催とオンライン開催の比較

	集合開催	オンライン開催
参加者	各区市町村ごとに1エントリー、地区推薦を要する	各中学校ごとに3エントリーまで、学校代表のため地区推薦は不要
表彰状など	表彰状（紙面）および表彰楯を会場で授与	デジタル表彰状を送信
Speakingの部	Speaking Aは表彰あり、Bは発表のみ 制限時間3分	Speaking A、Bとも表彰あり 制限時間2分 In One Take（一発録画）
Playの部	制限時間20分	制限時間5分 ビデオ編集可
Performanceの部		制限時間2分 ビデオ編集可 英語を使って演ずる、踊る、歌う、遊ぶ、順位なし
特徴、利点等	コンサートホールで実施、音響、照明、空調等がスピーチやプレイに最適、他の優れた作品を互いに鑑賞できる。 R4 かめありリリオホール R5 たましんRISURUホール（予定）	物理的距離に関係なく参加できる。時間のある時に準備できる。感染状況に関わらず実施できる。他の優れた作品を互いに安全に鑑賞できる方法を考案したい。
参加費	1エントリーにつき5,000円を徴収して会場費等の一部に充当している。	参加費はR4年度時点で徴収していない。
今後の展望（願望を含む）	開催地区を区部、市部等で1年おきにすること。遠隔地からの参加を可能にする方法の検討。	AIを活用する等により参加枠の拡大。応募方式の簡略化。参加資格の拡大の検討。開催時期を早める。

3 皆様への感謝

応募については集合開催では、Speaking Aが13、同Bが2、Playが5で合計20エントリーでした。一方オンライン開催では、Speaking Aが38、同Bが6、Playが10、Performanceが4で合計58エントリーでした。

「英語学芸大会」は次年度も実施します。今後も様々な困難は想定されますが、工夫により生徒活躍の場を設定し、生徒の英語運用能力の向上、課題に立ち向かう姿勢や、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度の育成のため、皆様におかれましては、引き続き何卒よろしくお願い申し上げます。皆様いつも大変ありがとうございます。

“Run, Melos, Run” 走れ！足立区立第十四中学校2年生！

足立区立第十四中学校 教諭 田中 一成

本校では、文化祭で、第2学年、第3学年が舞台発表を行うことが慣例となっていた。吹奏楽部の演奏をBGMとする華やかなミュージカルや演劇に、役者だけでなく、大道具や衣装の作成、音響・照明に学年が一丸となって取り組む。新型コロナウイルス感染症のために、この2年間控えていたが、今年度は、観客数を抑えて、学年劇に取り組むこととなった。

早速、年度当初、学年劇プロジェクトチーム（通称・劇プロ）と称して有志を招集、さまざまな選択肢を示した。その中の一つが、英語劇であった。

「十四中初、文化祭で、本格的な英語劇を披露しよう！であるならば、足立区立中学校連合演劇発表会にも出演しよう！」

脚本は、足立区立千寿桜堤中学校が、平成27年度に優勝した『走れメロス』。当時ご指導にあたっていらした吉澤先生にいただいて、さらに十四中アレンジを加えた。劇プロのメンバーを中心にキャストの募集&オーディションを行い、まずはメインキャストを決定。さらに仲間を増やしていく形で、総勢40名を越えるメンバーでの稽古が始まった。夏休み中には台本の読み合わせ、発音指導に力を入れた。実のところ、「学年劇で英語劇を」という野望はすでに第1学年の頃から、教員の中に芽生えていた。そのためにはまずは発音である。入学時から、フォニックスの指導に力を入れてきた。さらに今年度は、夏休み明けには、台本の中の1ページを覚える暗唱テストを生徒全員に課した。授業中だけでなく、休み時間も使って、待ち構える英語科の教員に、挑戦者は評価カードを渡し、3つのセクションを暗唱していくというスタイルである。その頃の休み時間は、2学年のフロアでは「死ぬのは怖くありません！」「代わりに私を殺してください！」などと英語でつぶやく2年生の姿があった。その成果もあって、授業で新しい表現が出てきても、「あ、これメロスで出てきた。」とセリフをすらすらと引用する生徒が出てきたのである。

そして、秋。後期が始まり、文化祭と連合英語学芸会に向けての準備も佳境を迎えた。スタッフワークは、演劇部顧問が演出を担当し、教員で分業した。キャストだけでなく、多くの生徒が準備に関わった。大道具、小道具、衣装の準備。メロスを翻弄する山賊の殺陣に、川の濁流を表現するダンサーたち。音響照明。文化祭では、吹奏楽部の2年生が迫力の生演奏。学年240人の内、実に100名以上の生徒がこの英語劇プロジェクトに携わった。

彼らは決して、英語が得意な子ばかりではない、それでも英語でセリフを覚え、正しい発音になるよう何度も何度も練習し、その英語のセリフに感情をのせて「演じる」ところまでもってきたのだ。区大会で優勝したときの彼らの喜びようは忘れられない。文化祭では前日のゲネプロに続き、観客数を抑えるために3回の公演を行ったが、上演のたびに、生徒は上達していった。その姿はまさに輝いていた。今回の都大会。通算5回の本番の機会を与えられ、緊張して他校の発表を観ながらも、自分たちの劇に活かせるところを探し、最後の瞬間までより良い劇にしようとする彼らの姿勢こそが今回の結果を生んだのだと思う。

ここまで来るのは、決して易しい道のりではなかった。しかし我々は走った。メロスはたった1人で走ったが、私たちには、学年の仲間がいた。みんなで走って、ついにここまで来た。「いまはただその一事だ。走れ！メロス。」あきらめずにみんなで最後まで走り切ったら、素晴らしい景色を見ることができた。この学年劇の取組が、集団としての力を高め、今後の学習への姿勢にも生きると確信している。

自分の個性こそ最大の長所に

新宿区立牛込第二中学校 教諭 岡 信太郎

まず初めに、東京都中学校英語学芸大会を運営して下さった関係者の方々に、お礼を申し上げます。

今回の出場者であるポダルコさんは、高い英語力はもちろんのこと、自分の考えを発信する力、人間性にも優れ、日ごろから周囲の生徒を引き付け模範となる存在である。

本校では、区の英語学芸大会の出場者を決定するために2・3年生合同でパフォーマンステストを実施した。さらに、優秀生徒を各学年から数名選出し、校内コンテストを行った。そして、校内コンテストで1位を取ったポダルコさんに出場を打診した。彼女が出場を決断し、スピーチテーマを決定する際には、「自分にしか話せない」ことを伝えようという結論に至った。彼女が書き上げた原稿には衝撃を受けた。日本生まれ日本育ちではあるが、自身の容姿が目立ちたくなくても目立ってしまう悩みや家族のおかげで、「周りと異なること」を、「自分にしかない個性であり長所」と考えられるようになったことなど、彼女の思いが詰まっており、強いメッセージ性を感じたからである。原稿が完成し、練習を行う際は、常に客観的に見ることを意識して取り組んだ。例えば、自身のタブレットで毎回録画し振り返ることや、他の英語科教員やALTの前で発表練習を行い、助言をいただくことを繰り返した。その際、区の学芸大会で学校紹介を担当する2年生を観客役として参加させ、視線の送り方や観客を意識した練習を行った。回を重ねるごとに、強く読む部分を工夫したり、より伝わりやすくするためのジェスチャーを考えるなど、彼女の伝えたいという情熱が高まっていることを感じた。当日は、ポダルコさんらしい自信にあふれる素晴らしいパフォーマンスであった。区大会後に、本校の学芸発表会で全校生徒に披露する機会があり、その場では、1年生にも伝わるように英語と日本語訳を表示し発表した。その結果、全生徒・全職員の心を打つようなスピーチとなった。12月に入り、都大会への準備を始めたが、5分の原稿を3分用の原稿に変更しなければならず、ALTにも協力してもらいながら、彼女の伝えたいメッセージが失われないように再考した。都大会当日は、やや緊張した様子もあったが、楽しみながら本番に臨むことができた。結果発表後、彼女が変わるきっかけを作った家族と会った際に、彼女から、「自分の力ではなく家族のおかげで優勝できた。」という発言に、私自身胸が熱くなり、ここまでの全てが表れていると感じた。

今年度4月から教員となった私だが、1年目からポダルコさんのような生徒と出会ったことを幸運に思う。頼りない場面も多くあったと思うが、彼女は1度も不満な表情や発言をすることなく、真っ直ぐに向き合ってくれた。その姿勢が本番でも多くの人の心を掴む結果となったと考える。私自身、何度も勇気や感動を与えられた。また、彼女が残したものは結果だけではない。1・2年生は彼女のスピーチを観ることで、最高のイメージをもって今後の活動に臨めるのではないかと思う。最後に、今回のスピーチ完成・発表にあたり、本校の英語科教員・ALTを始め、多くの方々にお力添えをいただいたこと、区・都大会の運営に携わるの方々に、このような素晴らしい体験をさせていただいたことに対して、改めて感謝申し上げます。

令和3年度研究報告

副部長 前田 宏美（港区立港南中学校）

1 研究のあらまし

平成30年度・平成31（令和元）年度の2年間は、「基本語いの選定」と「語い指導再考」をテーマに研究を進めた。前者は「研究部基本語い1200」の選定を行い、後者は「新出語いの導入方法の検討」を行った。

2 令和3年度の研究

学習指導要領（平成29年公示）が、中学校は令和3年度、小学校では令和2年度に施行され、中学校で学習する単語は1600～1800語、小学校で学習する単語は600～700語となった。新学習指導要領に準拠した検定教科書を用いて指導するにあたり、研究部では中学校および小学校の検定教科書で使用されている語彙の重なり度を参考に、「研究部中学校推奨語い1800」と「研究部小学校推奨語い700」を作成した。指導する語彙数が圧倒的に増えた中で、教師が効率的に語彙指導をする一助となることを目的としている。2つの語彙リスト発表後、東京都中学校英語教育研究会調査部が「コミュニケーション・テスト（1年生用）」の作成にあたり、「研究部小学校推奨語い700」を活用した他、高校・大学の先生方や出版社から語彙リスト提供のご依頼を受けた点においても、幅広く必要とされる情報を発表することができたと思われる。

3 今後の課題

(1) 語彙リストの活用

語彙リストを実際の授業でどのように活用するのか考案し、授業の様々な場面における語彙指導法の開発・提案を検討している。

(2) 受容語彙・発信語彙の選定

数多くの様々な語彙を指導するために、受容語彙と発信語彙を区別し、指導の軽重を測ることができるようにしたい。

(3) 生徒が産出する際に使用する語彙（発表語彙）の調査

平成31年度に生徒が話すこと〔やり取り〕において使用する語彙を調査したので、今後は生徒が書くことにおいて使用する語彙を調査して、中学生が必要とする発信語彙を調査したいと考えている。

4 参考文献

中学校検定教科書（全6社）・小学校検定教科書（全7社）

中央教育研究所（2021）「令和3年度版中学校英語教科書における語彙調査」公益財団法人中央教育研究所

5 研究部のホームページについて

研究部のホームページから、これまでの研究部研究冊子「語いと英語教育」をダウンロードできる。

研究部ホームページ <http://www.eigo.org/kenkyu>



「自らの学習を調整し、自分の考えや気持ちなどを即興で伝え合う生徒の育成
～一人1台端末を活用した言語活動プログラムや学習シートを通して～」

港区立三田中学校 主任教諭 松野 麻里恵

1 研究のねらい

中学校学習指導要領（平成29年3月告示）には、外国語科の目標において「関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で伝え合うことができるようにする。」と示されているおり、生徒が即興で話す力を高めることが求められている。また、個々の興味・関心・意欲等を踏まえてきめ細かく指導・支援することや、生徒が自らの学習状況を把握し、主体的に学習を調整することができるよう促していくことが今まで以上に求められている。そこで、一人1台端末の環境下で、生徒が自らの学習を調整し、自分の考えや気持ちなどを即興で伝え合うようにすることを本研究のねらいとした。

2 開発研究

(1) 生徒の即興で話す力を高める言語活動プログラムの開発

授業支援アプリを活用した、生徒の即興で話す力を高める言語活動プログラム（Quick Responseプログラム、以下、「QRプログラム」と表記）を開発した（表1）。15分の帯活動として、毎時間の授業で継続的に行った。活動中は、生徒は話すための原稿を事前に用意せず、準備時間も取らずに、「その場」で話す内容を考え、自分の考えや気持ちなどを伝え合うようにした。

表1 QRプログラム（一単元8時間とし、第5時に話題を変える場合の指導手順）

時間	□学習活動（第1時、第5時）	□学習活動（第2～4時、第6～8時）	
QRプログラム	2分	□端末に保存されている①～⑤のSmall Talkを順番に視聴する。 ※事前に教員がSmall Talkを録画し、端末に保存したものを生徒は視聴する。 ※①→⑤の順で、易→難のレベル差を付けている。	□教員からのフィードバックを確認する。 □再度、今日、自分が話す話題を①～⑤のSmall Talkから一つ選択する。
	1分	□①～⑤から、自分が話す話題を一つ選択する。	□本時の目標を設定する。
	1分	□教員のSmall Talkに対して、自分の考えや気持ちなどを即興で話す。 ※録画し、端末内に保存する。	
	2分	□学習シートに、言いたかったけれど言えなかった英単語などを記入し、Webブラウザ等で調べる。	
	5分	□友達が保存した動画を視聴して、やり取りをつなげるように自分の考えや気持ちなどを即興で話す。	
15分	3分	□活動を振り返る。 (1) 本時の目標の達成度を自己評価する。 (2) 自分の話に対して友達がどのような応答をしているかを、保存された動画を視聴し直して確認する。 (3) 友達の話の概要や英語表現等を振り返り、学習シートに記入する。	

※教員による指示：1分

(2) 自らの学習状況を把握し、適切に振り返ることができる学習シートの開発

生徒が、自らの学びに合った目標を設定し、言いたかったけれど言えなかった英単語などを調べ、調べた英単語などを記録・蓄積することで、自らの学習状況を把握し、振り返ることができる学習シートを開発した。

3 検証授業（令和3年10月実施）

(1) 生徒の即興で話す力を高める言語活動プログラムの有効性

第1時～第4時では「食べ物」、第5時～第8時では「スポーツ」についての話題を扱っ

た。第1時よりも第5時の方が、1分間の平均発話語数が増えた（図1）。このことから、一部の生徒だけではなく、生徒全体の発話語数が増え、即興で話す力が向上したと考える。

やり取りをつなげる活動では、友達が話したことに對して、やり取りをつなげている様子が見られた（図2）。生徒は、友達の話に對して、「その場で」考えて、質問したり意見を交換したりしながら、やり取りをつなげることができるようになったと考える。

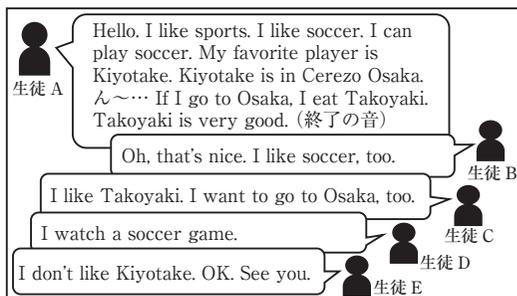
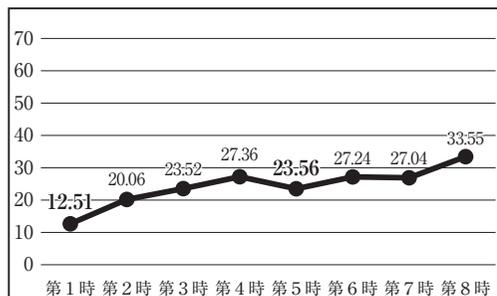


図1 1分間の平均発話語数 (n=104)

図2 検証授業で見られたやり取り例

(2) 自らの学習状況を把握し、適切に振り返ることができる学習シートの有効性

学習シートへの記述から、生徒自身で設定した目標に對する達成度を振り返ったり、調べた英単語などを次時の発話に生かしたりして、自らの学習を調整している様子が見られた（表2）。

5時に見られた生徒の発話例		
ええっと…I like playing volleyball. I have played volleyball many times. I also like playing basketball.		
第5時～第7時に見られた学習シートへの記録例		
	使いたい英単語など	調べた英単語など
①	バスケットボールをするのも好きです。	I also like playing basketball.
②	昼食後	after lunch
③	楽しみ	I'm looking forward to it.
④	これから	from now on
⑤	体育の授業	in P.E. class
第8時に見られた生徒の発話例		
I like playing volleyball. It is fun. I'm not good at playing volleyball. And I'm not on the volleyball team. I often play volleyball with my friend <u>after lunch</u> (②). <u>I also like playing basketball</u> (①). I will play basketball <u>in P.E. class</u> (⑤). <u>I'm looking forward to it</u> (③). What sport do you like?		

表2 学習シートを活用した発話の変容

4 研究の成果

- ・帯活動として、継続的に言語活動プログラムを行うことで、生徒の発話語数が増えたり、「その場で」話す内容を考え、やり取りをつなげたりすることができるようになり、自分の考えや気持ちなどを即興で話す力を高めることができた。
- ・一人1台端末を活用した学習シートに学習の内容を記録・蓄積し、学習の成果を可視化することにより、学習状況を把握し、振り返り、次時に生かすようになり、自らの学習を調整する姿が見られた。

5 今後の課題

- ・言語活動プログラムの有効性をあらゆる話題を扱って検証する。
- ・学習シートの項目を見直し、生徒の即興で話す力をより高めることができるシートにする。

生徒の自主的自律的な学びを生み出す指導と評価の工夫 ～生徒の学びの質を高める指導の工夫を通して～

足立区立入谷南中学校 主任教諭 島田 拓

1 主題設定の理由

これまで本校においては、「主体的に学習に取り組む態度」を育成する取組として、スローラーナーが自信をもって主体的に学習に取り組めるよう、音読指導を行ってきた。スローラーナーは、英語学習の仕方が分からなかったり、正しい学習の仕方が定着していなかったりする現状が見られることから、学び方を指導し定着させることは、多くの生徒の学力を高める上で効果的であると考えた。特に、黙読・音読の学習活動は授業の中だけでなく、家庭学習としても大切な役割を担っているため、黙読指導（初見の英文の黙読と既習の英文の黙読）と音読指導（発音のルールに関する指導、初見の単語を発音させる機会の設定、手順を意識した音読指導）の充実を図ってきた。

こうした取組を土台として、「学びに向かう力、人間性等」を「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」と一体的に育成する過程を通じて育成することとし、生徒が効果的に身に付け、学びの質を高める指導の工夫を行い、研究及び授業改善を図った。

2 研究の概要

(1) 「主体的に学習に取り組む態度」の育成に向けた実践

「主体的に学習に取り組む態度」の育成に向けて、「子供たちに未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む外国語科における指導と評価の一体化を目指して〈実践事例〉」（東京都教育委員会 令和4年3月）に示されている単元構成例（図1参照）等を参考に、バックワード・デザインの視点から授業や単元を組み立てた。単元や各授業の目標を明確にし、生徒が主体的に目標の達成に向けた取組を行えるようにした。

また、単元や各授業の目標の達成に向けて必要な「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」を段階的に身に付けていけるよう、①既習の「知識及び技能」を実際のコミュニケーションの場面において活用し、表現することを繰り返す指導、②考え方を身に付け、思考を深めさせるための指導を実践した。評価場面においては、生徒が目標を達成するために必要な力を養えるようフィードバックを行った。フィードバックを通じて、学習過程における生徒の気づきを促したり、学習の見通しをもたせたりすることで、生徒が粘り強く取組み続けられるよう支援した。

①既習の「知識及び技能」を実際のコミュニケーションの場面において活用し、表現することを繰り返す指導

I Q&Aによる練習

スローラーナーも活動しやすいよう、帯活動としてあらかじめ提示した質問に対して答える練習を行った。具体的には、生徒同士がペアになり、Q&Aワークシートを用いて一方の生徒が質問をし、もう一方の生徒が質問に答える。慣れてきたら、質問に答える生徒は2文で答える。さらに慣れてきたら、質問する側の生徒は、生徒が答えた内容に対して、もう一度別の質問をするという流れで活動させる。中間指導として、生徒が英語で言いたかったが言えなかった表現を一緒に考えたり共有したりする場面を設けた。中間指導後には、ペアを変えて再度活動に取り組みさせた。

II 教師のSmall Talkから生徒同士のやり取りへつなげる指導

生徒に教師のSmall Talkを聞かせる。その際に生徒に質問したり、生徒から教師側へ質問させたりし、Interactionしながら行う。そのようにやり取りをし、生徒同士のペアワークへ移行する。ペアワークでは、教師のSmall Talkと同じ話題

でやり取りをさせる。生徒の話す英語にいくらか文法の誤りが生じて、求められた内容に対して積極的に英語で伝えることを優先させる。必要に応じて、発話の正確さを高めるための中間指導を行い、ペアを変えて再度やり取りさせる。

②考え方を身に付け、思考を深めさせるための指導

生徒が多様な考え方や多面的な視点をもてるようにするため、事実確認の質問と推論発問を織り交ぜながら、教科書本文の内容理解を行った。

I Display question (事実確認発問)

教科書本文に情報が書かれている発問、教科書本文の概要や要点を捉えさせるもの。

II Inferential question (推論発問)

行間を読む推論発問を行い、生徒の思考力を働かせる。登場人物の心情などを問い、より深い内容理解を促すもの。

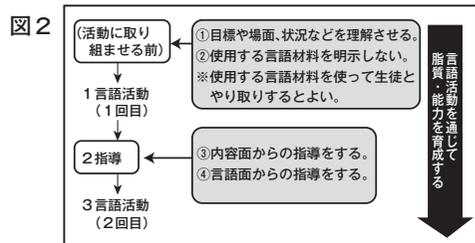
III Referential question (題材に関する発問)

題材を生徒自身に近付ける発問で、生徒自身に考えさせ自分の意見や考えをもたせるもの。例えば自分は題材のテーマについてどう思うか、自分が登場人物だったらどうするかなどについて質問する。

教科書本文の場面・設定等に応じて、「聞くこと」、「読むこと」の活動を行いながら、I～IIIの発問を織り交ぜ、生徒とやり取りをした。

(2) 評価についての工夫

「主体的に学習に取り組む態度」の育成に向けた、パフォーマンステスト（記録に残す評価）に至るまでの指導は、『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料 中学校外国語』（国立教育政策研究所 令和2年3月）に示された下記の指導過程（図2参照）をもとに、指導している。この単位時間における指導例のイメージのように、生徒が言語活動への取組に関して見通しを立てたり振り返ったりして自らの学習を自覚的に捉え、主体的に学習を進めることができるようフィードバックを与えた。



3 研究の成果と今後の課題

○成果としては、既習の「知識及び技能」を実際のコミュニケーションの場面において活用し、表現することを繰り返すことにより、生徒自身の英語での発話量が増えてきた。上記の発問を織り交ぜて指導することで、内容理解が単調にならず、生徒が自分の意見を考え、互いに意見や考え方を共有する場面が増えた。パフォーマンステスト（記録に残す評価）に向けて生徒に身に付けさせたい力について、フィードバックを通じて生徒に具体的な助言を与えたり、生徒自身に気付きを与えたりすることができた。

○課題としては、流暢さや積極的な発話を促しながら言語使用における正確さを高める指導を引き続き行っていく必要がある。Inferential questionやReferential questionでは、考える時間をしっかりと確保したり、生徒同士で新たな考え方に気付いたり学んだりできる場面を増やし、生徒が進んで自分の考えを述べられるようにしていく必要がある。また、言語活動（1回目）に対する指導により改善させた点を、次の時間や単元での別の言語活動の際にも意識するよう徹底する。

4 指導助言者 東京都教育庁指導部義務教育指導課 浅井 剛 指導主事

デジタル教科書・ICT機器の活用について

渋谷区立松濤中学校 主幹教諭 橋本 晋作

学習指導要領の改訂からすでに5年あまりが経過している。「学習指導要領解説 外国語編 3 指導計画の作成と内容の取り扱い(2)内容の取扱い」(平成29年7月)では、「生徒が身に付けるべき資質・能力や生徒の実態、教材の内容などに応じて、視聴覚教材やコンピュータ、情報通信ネットワーク、教育機器などを有効活用し、生徒の興味・関心をより高め、指導の効率化や言語活動の更なる充実を図るようにすること。」とある。

また、視聴覚機器やその他の教育機器の有効活用に関する記述として、「まず教師がコミュニケーションの手段として英語を積極的に使っていくことが必要であり、それを補い助けていく上で、いかに様々な教育機器が効果的であるかを考えなければならない。」ともある。

ICT機器についてはすでに多くの学校現場に浸透していっていると実感している。一方で、デジタル教科書についてはまだまだ地域による導入の差が感じられる。すでに導入されている地域においても、「いまだに活用の仕方に苦慮している」という声を多く聞いている。

現に、私も試行錯誤している一人だが、ここにICT機器等を活用する上での考え方と実践例をわずかではあるが紹介したい。

1 授業でいつも大切にしていること～ICT機器やデジタル教科書を活用する仕掛け～

- (1) 「学校でしかできないこと」と「家庭でもできること」の選別
- (2) アウトプットすることでインプットの動機付けと活性化
- (3) 教えない授業（生徒の推測と気づきを基にした授業展開）

学校でしかできないこととはクラスメイトと意見を交わすことで思考を深めることを指す。家庭でもできることとの精査をすることで、より学習密度の高い授業を心がけている。後述するが、例えば音読は家庭で行うなど、デジタル教科書を使うきっかけにもなる。

実際の授業では、まずアウトプットさせることから始める。生徒はできない体験をすることでタスク達成のための手段を考える。まさにそれがインプットの動機となり、より主体的に学ぶようになる。その際にICT機器やデジタル教科書はうってつけの材料となる。

その際、教員はファシリテーターに徹し、極力生徒が推測したり気付いたりする方向へ導く。確かな授業規律が前提となるが、生徒に学ぶ方法を選ばせることも重要である。そのことがより主体的な学びとなり、今後重視される個別最適な学びにもなっていく。

2 ICT機器やデジタル教科書活用の実践例

(1) デジタル教科書を活用した音読活動

- 音声機能を生かして、自分の習熟度に合わせて音声速度を調整
- 音読で本文表現を定着させることで、やり取りの際に引用できるようにする
- 例 オーバーラッピング（本文を見ながらモデル音声に重なるように音読）
シャドーイング（本文を見ずに聞こえたモデル音声を追いかけるように音読）
- 自宅で録音した音源を提出

授業で音読に割く時間には限りがあるため、残りは自宅で練習させている。学校でしかできない活動に時間を確保するためである。生徒は自宅でタブレットに録音した音源をデジタルで提出する。時間や練習回数の制限を設けないことで、生徒は自然と何度も練習し、ベストな音源を提出するようになる。

(2) アンケートアプリケーションを活用したデータ集約とフィードバック

- ペアでのやり取りを踏まえて考えたこと
- 言いたかったけれど言えなかった表現

例えばやり取りの授業では、ペアでの会話を踏まえて考えたこと、言いたかったけれど言えなかった表現をタブレットで入力させ、その内容を一覧化して生徒に示している。その中で共通するものを中心に次回の授業でフィードバックし、やり取りの際に使えるよう指導する。言いたかったけれど言えなかった表現の共通項は、例えば文法や語順、コロケーションが含まれる。フィードバックする際には、これらをただ提示するのではなく、どう表現すればよいかをクラスで考えさせるようにしている。やり取りするトピックに関連する語彙を集約してワードバンクにすることで、自分にはなかったクラスメイト全員分の語彙をインプットすることができる。これはまさに「学校でしかできないこと」である。

3 さいごに

考えてみると、ICT機器やデジタル教科書を使う方法は案外いくらでもある。現在はオールイングリッシュの授業が求められるが、生徒に英語のまま理解させる上では、ICTを駆使した視聴覚教材は必須だ。

また、板書の考え方を見直すきっかけも与えてくれている。ICT機器やデジタル教科書を使うことで板書の手間が省け、その分本時の目標達成のための練習時間を確保できる。代わりに板書するのは、生徒から出た良い発言や質問、エラーなどであり、その時間の学びの流れや集約したものを可視化することができる。

人数が増えるにつれて、自分にはなかった新しい考えを知り、もとにあった考えがより良いものになっていくことを実感させる。そのことを学びの目標に、今後もICT機器やデジタル教科書を積極的に活用していく。

総務部報告

(総務部長 板垣 繁)

1 定期総会

4～5月、都中英研各部と連絡を取り合い、総会資料を作成した。

6月、各地区幹事宛に定期総会資料を配布し、ファクシミリにて承認の確認を取った。

2 地区幹事名簿作成

今年度の各地区幹事名簿を作成した。

今年度は、各地区への連絡について、資源及び経費削減の観点から、従来の交換便及び郵送による方法を見直し、可能な限りメールによる伝達を行うことを目指した。

58地区中、40地区とメールによる連絡が可能となった。

3 第46回関東甲信地区中学校英語教育研究協議会群馬大会第1回理事研修会

※オンライン

6月28日、今年度大会のオンラインによる開催方法や分科会のもち方等について協議した。

その後、東京都の発表者及び助言指導者(都教委指導主事)と連絡を取り、発表に向け準備を進めた。

4 全英連との連携

8月に「第72回全国英語教育研究団体連合会総会 第72回全国英語教育研究大会(全英連佐賀大会)」、12月に「第6回中英ネットワークショップ」の開催案内を、各地区幹事を通して会員に周知した。

5 第61回大都市公立中学校英語教育研究会連絡協議会神戸大会

※紙面及びオンライン開催

10月7日、「新学習指導要領と英語の授業」をテーマに、紙面での情報交換とオンラインによる講演会が行われた。

講師：関西大学教授 田尻 吾郎 先生

6 第46回関東甲信地区中学校英語教育研究協議会群馬大会第2回理事研修会

※オンライン

10月21日、翌月に控えた本大会の最終確認を行った。

(本大会については別ページに詳細)

7 令和4年度東京都教職員研修センター教育課題研究発表会

11月、本発表会の教育実践発表に向けたポスターを制作し、提出した。

8 役員会

4月11日(会長・副会長会)

※オンライン

・今年度活動の打ち合わせ

6月7日

※オンライン

・令和4年度定期総会について

・今年度の活動について他

7月12日(会長・副会長会)

※オンライン

・今後の活動の打ち合わせ

9月26日

※オンライン

・夏季ワークショップ報告

・英語学芸大会の運営について

・各部の事業報告他

11月25日

※オンライン

・中英研会報について

・各部の事業報告他

2月24日

※オンライン

・令和4年度の活動のまとめ

・令和5年度事業計画について他

事業部報告

(事業部長 横山 達也)

1 サマーワークショップ

開催日：令和4年8月19日（金）

会場：千代田区立九段中等教育学校

テーマ：「中学校英語スピーキングテスト（ESAT-J）を活用する英語教師」

講師：東京都教育庁指導部指導企画課
国際教育推進担当

関谷 さやか 統括指導主事

発表者：横山達也（八王子六）

加藤真由子（調布五）

亀田洋斉、黄 俐嘉（九段中等）

今年度に導入されたESAT-Jの詳細を正確に把握し、効果的に準備を進め、生徒のスピーキング力を向上させるための具体的な授業構成を模索するハイブリッド方式のワークショップで187名の参加があった。

2 第75回 東京都中学校英語学芸大会

今年度の英語学芸大会は、集合開催とオンライン開催の2つを別の大会として実施した。集合開催は各地区から代表が1エントリー、オンライン開催は各学校代表が3エントリーまで可。結果は以下のとおり。

【オンライン開催】Teatre on Line Tokyo

◇Speakingの部 A（参加38名）2分間

1位 Are Japanese Students Depressed?
港・港南 Motojima Masami

2位 Discrimination : Am I a Part of the Problem?
港・港南 Saito Ray

3位 Be Yourself
港・港南 Hayakawa Rina

◇Speakingの部 B（参加6名）2分間

1位 My Future, Our Future
世田谷・瀬田 Kato Ran

2位 Space Exploration
町田・鶴川 Yamaguchi Sara

3位 Smile Pandemic

世田谷・瀬田 Tsukii Yuka

◇Playの部（参加10校）5分間・編集可

1位 The First Day 板橋・上板橋三

2位 City Lights 清瀬・清瀬

2位 The Cat Who Wanted to Be a Man 練馬・石神井西

特別賞 The History of Ogasawara
小笠原・小笠原

◇Performanceの部（参加4校）2分間・編集可 ※中英研HPに全結果を掲載中

【集合開催】Kameari Lirio Hall / Dec.26, 2022

◇Speakingの部（参加15名）

1位 White Crow

新宿・牛込二 Aleksandra Podalko

2位 My Ukrainian Friend

大田・東調布 Ogawa Sakura

特別賞 Education Is Manipulation
目黒・東山 Ashida Aika

◇Playの部（参加5校）

1位 Run, Melos, Run 足立・第十四

2位 The Twin Lamps 千代田・九段中等

3位 Calling Voice 学芸大附属小金井

3 第37回 授業力アップ研修会

開催日：令和5年2月14日（火）

会場：千代田区立九段中等教育学校

テーマ：話すこと（発表・やり取り）の力を高める

授業者：黄 俐嘉（九段中等）

発表者：田島大介（葛飾・奥戸）

亀田洋斉（九段中等）

講師：順天堂大学 佐藤ひろみ 客員教授
東京都中学校英語教育研究会会長
遠藤哲也

本研修会は、8月のサマーワークショップの続編である。ESAT-Jを活用して、日常的に授業改善を行い、生徒のスピーキング力や総合的な英語力を高める方策、さらに教師自身が自己の英語力を授業運営や授業実施を通して格段に高めていくための方法を参加者とともに探る。

※事業部での研究を希望される方は、どうぞご連絡ください。

(担当 亀有中 平岡)

調査部報告

(調査部長 荒川 高広)

1 コミュニケーションテストについて

月1回対面で部会を実施し、新学習指導要領の完全実施に伴う新たなコミュニケーションテストの作成を進めている。特に1年生対象の問題については、*小学校での学習経験を踏まえ、全面的な改訂を進めている。

令和5年度春に各学年改訂版をリリースする予定である。

*作問にあたり研究部作成の「研究部推奨語いりリスト」を活用させていただきました。この場をお借りして謝意を表します。

2 夏季ワークショップ

日時：令和4年8月23日（火）

内容：

【講義】

- 「思考力・判断力・表現力を測るテスト問題の在り方 ～読む力と書く力～」

講師：根岸 雅史 先生

(東京外国語大学大学院総合国際学研究院教授)

- 「本文の指導と評価を考えるためのフローチャートモデル」

講師：本多 敏幸 先生

(千代田区立九段中等教育学校講師)

【ワークショップ】

講師：根岸 雅史 先生

(東京外国語大学大学院総合国際学研究院教授)

本多 敏幸 先生

(千代田区立九段中等教育学校講師)

工藤 洋路 先生

(玉川大学文学部英語教育学科教授)

まず根岸先生から、思考力・判断力・表現力を測るテスト問題について、学習指導要領や国立教育政策研究所の資料などを押さえつつ、考査問題を作成する際のポイントについて御講義いただいた。続いて本多先生からは、指導と評価の一体化を鑑みて、教科書本文を扱う際の考え方を御講義いただいた。

続くワークショップでは、参加者が今年度すでに各校で実施した考査問題の一部を持ち寄り、当該問題についてグループごとに協議した。グループ内で共有した問題例のうち一つを選定し、どうしたらより思考力・判断力・表現力を測るのに適切な問題(リード文や設問など)になるかをさらに協議した。最後に、各グループから当初の問題と改善後の問題案について発表し、講師の先生方より評価観点に見合っているか、また改善するにはどうしたらよいか御助言をいただいた。

実際の考査問題を題材にすることで、測りたい力に見合った目的・場面・状況の設定の仕方などを具体的に考えることができた。(一般参加27名、調査部員14名)

<参加者の振り返りアンケートより>

- テストの前に授業や評価の計画を丁寧に立てることが、いいテスト作りにもつながることがわかった。
- 日頃のテストや、テスト作成についての自分の考え方を振り返り、考え直すことができた。
- 評価について生徒に分かりやすい言葉で伝え、力を伸ばしていけるようにしたい。
- これまで疑問に思っていなかった文言や、会話なのにライティング問題にしていたという違和感など、普段気付かない部分に気付かされた。自分とは違う考えや切り口が新しい思考と結び付いた。
- グループ協議は、一つの問題に対して、「知技」なのか「思判表」なのかを話し合ういい機会となった。「思判表」だと思っていたものが「技能」であるなど、次回の考査作成からすぐに活かせる学びがたくさんあった。

研究部報告

(研究部副部長 水嶋 諒)

1 研究主題と概要

研究テーマ：語いと英語教育 (45)

中学校・小学校検定教科書における語彙

- 中学校検定教科書における発信語彙
- 中学生が書く活動で使用した語彙 (中間報告)
- 「研究部中学校推奨語い1800」「研究部小学校推奨語い700」に基づく実践例

昨年度発表した「研究部中学校推奨語い1800」と「研究部小学校推奨語い700」において、中学生が話したり、書いたりして表現できるように指導すべき語彙 (発信語彙) を確認するために、今年度は中学生が書くことにおいて使用する語彙を調査した。

また、中学校現場で、「研究部中学校推奨語い1800」や「研究部小学校推奨語い700」を活用していただくために、2つの語彙リストを活用した指導法をリストにまとめた。先生方が授業において、語彙の軽重を判断し、より効率的に生徒に語彙指導を行うための一助となれば幸いである。

2 研究部会・研究部ワークショップ

今年度も社会情勢 (新型コロナウイルスの感染拡大状況) を鑑み、月1回の部会 (年間12回) は、オンラインで実施した。また、夏季休業期間には、「第19回研究部ワークショップ」をオンラインにより実施した。ワークショップの内容・発表者 (研究部員) は以下のとおりである。

第1回 8月1日 (月) (参加者170名)

- ① 「増えた語い・長くなった本文指導の工夫」
橋本 晋作 (渋谷区立松濤中学校)
- ② 「定期考査・パフォーマンステストから逆算して指導を考える」
高杉 達也 (筑波大学附属中学校)
- ③ 「即興で話す力を高める授業実践～英語で言いたかったけれど言えなかった日本語を調べる活動を通して～」
前田 宏美 (港区立港南中学校)
松野 麻里恵 (港区立三田中学校)

第2回 8月4日 (木) (参加者150名)

- ① 「主体的に学習に取り組む態度を高める指導の工夫」
島田 拓 (足立区立入谷南中学校)
大島 良一 (江戸川区立篠崎第二中学校)
- ② 「5ラウンドシステム～実際の指導と評価～」
森沢 俊彦 (町田市立真光寺中学校)
- ③ 「教科書1パート、1単元の指導手順」
溪内 明 (文京区立本郷台中学校)

3 研究発表について

2月21日 (火) に拓殖大学の日臺滋之先生を指導講師に迎え、オンラインによって実施した。まず、研究部の多田翔 (江東区立第三砂町中学校) と松野麻里恵 (港区立三田中学校) より、今年度の研究内容について発表した。そのあと、日臺先生から指導助言をいただき、「生徒のニーズを知り授業に活かす — 日英パラレルコーパス EasyConc と検索ツールの活用」というテーマでご講演いただいた。

なお、令和4年度の研究部研究冊子「語いと英語教育 (45)」は、東京都中学校英語教育研究会よりダウンロードすることができる。

プロジェクトチーム部報告

(プロジェクトチーム部 部長 佐藤 順一)

これまでプロジェクトチーム部 (PT部) では、CAN-DOリストについて研究を重ねてきた。新学習指導要領全面実施にあたり、これまでの活動を生かしつつ主体的・対話的で深い学びの視点から「指導と評価の一体化」について研究に取り組んでいくこととなった。今年度は「指導場面に応じた音読指導の開発」というテーマのもと具体的な音読指導の進め方について研究を進めていった。研究推進にあたり、文教大学阿野幸一先生の資料「目的別 音読指導のレシピ」にある指導場面に応じた指導事例を参考とした。例年、研修会を2回実施している。1回目は夏季休業中にワークショップの形式でPT部員の実践報告をした後、講師の先生をお招きして研究テーマに沿ったご講義をいただいている。今年度はオンライン形式で実施し、89名の先生方に参加していただいた。2回目はPT部員による研究授業を例年行っており、今年度も計画はしていたが、昨今の状況により一般への発表は中止とし、PT部員による研究授業の実施と文教大学阿野幸一先生を講師としての部内研修会を実施し、来年度還元研修を行う予定である。

プロジェクトチーム部 夏季研修会

日 時：令和4年8月22日 (月)

場 所：墨田区立吾嬬立花中学校

内 容：PT部による実践報告とワークショップ

講 師：文教大学教授 阿野 幸一 先生

プロジェクトチーム部 研究授業・研修会

日 時：令和5年2月17日 (金)

場 所：西東京市立ひばりが丘中学校

内 容：授業研究

授業者：西東京市立ひばりが丘中学校

佐藤 善明 主任教諭

講 師：文教大学教授 阿野 幸一 先生

出版部報告

(出版部長 今本 由美子)

出版部では、主に「都中英研だより」と「中英研会報」の作成・発行を担当している。今年度も、オンラインによる部会や編集作業が中心となったが、一部集合することもできた。また、今年度も部員相互での情報交換を中心に、自己研鑽に努めた。

具体的な活動状況は以下の通りである。

○「都中英研だより」第76号

(令和4年10月15日発行)

学習指導要領全面実施2年目を迎え、先生方の日々の授業実践等に役立てるよう、また、各部の活動についての情報発信の場となるように紙面を組み、「『主体的に学習に取り組む態度』の評価について」の他、中英研各部サマータークワークショップ報告、今年度、集合+オンラインの2部開催となった「令和4年度・第75回英語学芸大会の運営方法について」等を掲載した。

○「令和4年度 中英研会報」第81号

(令和5年3月1日発行予定)

都中英研の年間活動や英語教育活動のまとめ、また、日々の授業実践等に役立つ情報の発信として、「東京都の英語教育のさらなる充実と発展を目指して」、「『やり取り』の力の重要性と育成について」「令和4年度東京都教育委員会の取組」、「東京都教職員研修センターにおける外国語(英語)に関する研修について」、また、英語学芸大会報告、実践研究、各地区の活動状況、中英研事業報告、各部活動報告等を掲載する予定である。

※昨年度より各校への配布を1部(1冊)としている。HP等を活用しながら、情報を広く発信していきたい。

第61回大都市公立中学校
英語教育研究会連絡協議会
神戸大会

(副会長 平岡 栄一)

※令和4年度は3年ぶりに対面開催（神戸市総合教育センター・神戸ハーバーランド内）が予定されたが、感染拡大のため書面開催に変更され、講演のみ配信された（アーカイブ配信なし）。

本大会は昭和36年に「六大都市公立中学校英語教育研究会」として発足し、その後、政令指定都市が増加し、令和4年度参加該当都市は19である。本年度の概要を報告する。

1 開催日時

令和4年10月7日（金）14:30-16:00

2 研究主題「新学習指導要領と英語の授業」

3 参加都市

札幌市／仙台市／さいたま市／千葉市／東京都／川崎市／横浜市／静岡市／浜松市／名古屋市／京都市／大阪市／堺市／神戸市／岡山市／広島市／北九州市／福岡市／熊本市

4 事前アンケートについて

本研究会の事前アンケートの質問項目、また回答を一部紹介する。

(1) 小中連携推進状況及び工夫について

○都：都全体では、東京都教師道場での小中高の相互の授業観察のしくみがある。その他各区市町村での小中相互の授業観察、小中教員のTT、都中英研における小中連携のための研修会開催、都中英研における小中高大連携のための研修会開催等、○横：全市で小中一貫ブロックを設定、○さ：9年間を見通した独自カリキュラム作成、○仙：中学校から校区の小学校にALTを派遣している、○札：小中連携英語教育改善プランを策定、○名：小中教師が集まり学びを深める機会を年間9回設定、小学校の授業研究を外部講師を招き年間4回実施、指導の成果の可視化、○京：小中間の人事交流、出張授業、小中高合同の研修、マネジメントを工夫して各ブロックの熱を高める、○神：小中連携研究グループの設置、○静：全小学校に英語科専科教員を配置、小学校の英語教材や教具を中学校教諭が知ること、○千：自治体としてのCAN-DOリスト策定の検討、○静：教材の共有、即興性の重視、小学校5、6年で「書き写す」活動を行い、書くことに慣れさせる、○大：小中兼務の教員が中心となってパフォーマンステストを実施して、そ

れを全校に広げる、○岡：生徒のつぶやきも録音されているようなVTRのライブラリーをつくる、○広：全ての小中連携教育研究会において英語教育研究チームを設置する、○九：中学校スピーチコンテストを奨学生が参観する、○熊：学区の小中学校で同じALTが配置されているため、ALTに小学生向けの英会話シートを作成してもらい繰り返し使用する、児童生徒が動画を作成して交流する(2) 指導と評価の一体化の工夫や課題について

○都：各自治体において指導と評価の一体化についての資料作成、都中英研の各研修において指導と評価の一体化の実践事例の提示、研究協議、研究授業の実施、評価計画の作成、評価のしくみを正確に把握して生徒の意欲や学力向上に生かすことが課題、○仙：生徒と教師でCAN-DOリストを共有し、「何ができるようになる」のが目標で、「実際にどうなっているか」を生徒に振り返らせている、○川：学習指導事例集を編集、○静：パフォーマンステストの適切な設定、○名：生徒の英語使用の質と量が高まる指導と評価の一体化が必要だと常に周知している、○堺：堺スタンダードの研修と研究、○岡：しっかりとした単元構想とCan-Do、タブレットを活用した音読、家庭学習との連携、○北：専門の指導員が各学校を訪問して情報を共有する、○福：めあてを明確にする、最後にめあてを振り返って評価する、○熊：ロイロノートを使用して正確に評価を行い生徒に還元する、ループリック評価表によるパフォーマンス評価、○京：評価を授業改善に生かすにはまだ課題がある

(3) ICTを活用した授業について

○都：東京都立高校入試においてICT端末を利用した「ESAT-J」が今年度から導入された、生徒間や教師との双方向コミュニケーションの拡張、Google翻訳やGrammarly等も活用して、生徒や教師の表現力を大きく向上させたい、○札：遠方との交流、音読練習、○千：生徒がICTを主体的に自分の苦手分野の克服に使用すること、○横：生徒用デジタル教科書の活用、○静：自分のパフォーマンスを録画して、客観的に把握する、○大：板書などの効率化による指導時間の効率化、○広：他校のALTに向けてのスピーチ発表

5 記念講演

講師：関西大学外国語学部 教授
田尻 悟郎 先生

演題：「新学習指導要領と英語の授業」
内容：英語教育の目的、新学習指導要領、4技能5領域について

6 次期開催に向けて

次回、第62回は岡山市が開催都市となる。対面開催の予定である。

**第72回 全国英語教育研究団体
連合会総会**

**第72回 全国英語教育研究大会
佐賀大会**

「Across the Borders」～校種をつなぎ、
未来を切り開くコミュニケーション能力を
育む英語教育～

全英連 副会長
兼 中学部会長 難波 浩明
(足立区立第四中学校)

1 大会の主題等

令和4年11月14日(月)～19日(土)、佐賀県にて、第72回全英連総会及び全国英語教育研究大会が開催された。「Across the Borders」～校種をつなぎ、未来を切り開くコミュニケーション能力を育む英語教育～を大会テーマとして、小中高の英語教育を連携したものとし、世界で活躍する児童生徒を育成するための英語教育の在り方を考える。

2 総会・記念講演

(1) 総会

感染症拡大防止のため、総会は、全英連ホームページ上での紙面開催、全国理事会は、オンラインでの開催となった。

(2) 記念講演

講師：投野 由紀夫 教授
(東京外国語大学)

テーマ：「学校英語教育：何をどこまで？～小中高で身につけるべき英語力の全体像とトレーニング・イメージ～」

3 授業発表

(1) 小学校授業実演 (45分)

授業実演者：牛尾 美穂 教諭
(佐賀大学教育学部附属小学校)
授業助言者：直山 木綿子 氏
(文部科学省初等中等教育局視学官)

<内容>

本単元は、New Horizon Elementary English Course 5 Unit 7 を基に、「佐賀県の魅力を留学生に伝えよう」を単元のゴールとし、本時では、留学生に佐賀県をもっと好きになってもらえるように、内容や伝

え方を考えさせていた。導入時で、佐賀県の魅力について、写真を示しながら、教師がスモールトークを行ったり、チャンツで表現に慣れさせたりした後、グループ内で、発表したり、全体の場で英語の表現について考えさせたりしていた。

(2) 中学校授業実演 (50分)

授業実演者：合瀬 天規 教諭
(佐賀大学教育学部附属中学校)
授業助言者：林 裕子 准教授
(佐賀大学)

<内容>

Unit 9 Think Globally Act Locally (New Horizon English Course 1 東京書籍)の単元において、佐賀大学の留学生を招いて、ポスターセッションを開き、自分の問題として捉えたSDGs (My SDGs) について紹介することをゴールとして、本時の授業では、マッピングシートを用いて、自分の考えを述べたり、質問をし合ったりしながら、自分の思いや考えを見直していた。

(3) 高等学校授業実演 (50分)

授業実演者：横尾 彰乙 教諭
(佐賀県立佐賀西高等学校)
授業助言者：太田 光春 教授
(名古屋外国語大学)

<内容>

UNIT6 ENRICH LEARNING ENGLISH COMMUNICATION I 東京書籍の単元において、本時では、リーダーの資質について、グループ内や全体の場で、生徒同士や生徒と教師とのやり取りを行っていた。教師は、個別に生徒の発表について、言い換えたり言葉を添えたりして、確認しながら進めていた。

4 分科会

(1) 期 日：11月19日(土)

(2) 実施方法：オンライン

(3) 分科会数：前半14部会 後半14部会

内訳：小学校 2部会 中学校 13部会
高等学校 13部会

5 今年度の研究大会の特徴

今年度は、小中高の授業実演がオンデマンド配信の形で行われたが、映像が大変見やすく、授業者のみならず、生徒の皆さんの表情や言語活動の様子がよく理解できた。

第46回 関東甲信地区中学校 英語教育研究協議会 群馬大会報告

(総務部長 板垣 繁)

今大会は、令和4年11月11日（金）に開催されたが、群馬県内の教育関係者のみに限定して「研究授業の公開」及び「群馬県の提案」が行われた。他都県は、「基調提案」及び「記念講演」をYouTube 限定公開で視聴し、群馬県及び各都県からの提案は、2月に発行される「研究報告書」により発表されることとなった。

以下は、大会の概要である。

1 主題

主体的に学び、英語で豊かにコミュニケーションを図る生徒の育成

～生徒の学びの質を高める指導の工夫を通して～

2 主題設定の理由

平成29（2017）年3月に改訂された中学校学習指導要領は、「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」を一体的に育成するとともに、その過程を通して「学びに向かう力、人間性等」に示す資質・能力を育成するとしている。

外国語科では小・中・高等学校で一貫した目標が設定されている。その実現のために「聞くこと」「読むこと」「話すこと [やりとり]」「話すこと [発表]」「書くこと」の新たに五つの領域で目標が定められ、それぞれの領域における言語活動を通してコミュニケーションを図るために必要な資質・能力を育成することとしている。

さて、今回の改訂により小学校5年生から教科として外国語が導入されたことで、私たち英語教育担当教師にとって、小学校段階での学びを踏まえた中学校段階の英語

教育の役割を自覚し、日々の指導に当たる重要性がますます高まった。学習指導要領では、「学校種間の接続が十分とは言えず、進級や進学をした後に、それまでの学習内容や指導方法等を発展的に生かすことができない」状況が課題として指摘されている。このような課題を改善するためには、小学校や高等学校における学習内容との接続を踏まえた上で、中学校3年間における目標の設定をすること、またその実現を図るために単元など内容や時間のまとまりの中で身に付けさせたい資質・能力を明確に設定し、そこから逆算して計画的に指導していくことが必要となる。また、実際のコミュニケーション場面で生徒が「生きた言葉」でコミュニケーションができるよう、すなわち、目的・場面・状況に応じて、自分で情報を整理しながら考えを形成し、気持ちを込めて表現できるよう、五つの領域にわたってコミュニケーションを図るために必要な資質・能力をバランス良く育成したり、領域統合型の言語活動を十分に設定したりするなど、生徒にとって今まで以上に質の高いコミュニケーションを図る経験を積み上げていくことが必要不可欠である。さらには、自らの取組を客観的に振り返り、自らの成長を確認するとともに、新たな課題を明確にして、次の学びにつなげていくことを繰り返し経験させていくことも大切である。

これらを踏まえ、第46回関東甲信地区中学校英語教育研究協議会群馬大会における研究主題を「主体的に学び、英語で豊かにコミュニケーションを図る生徒の育成」とし、目指す生徒像を実現するための切り口として、「生徒の学びの質を高める指導の工夫を通して」をサブテーマとして設定することとした。

3 記念講演

文部科学省 初等中等教育局 情報教育・外国語教育課 外国語教育推進室
教科調査官 入之内 昌徳 氏

4 各分科会のテーマ及び発表者等

※(発) 発表者 (指) 指導者

第1分科会(山梨県、東京都、群馬県)
テーマ:生徒の自主的自律的な学びを生み出す指導と評価の工夫(主体的に学習に取り組む態度の育成)

- (発) 南部町立南部中学校
教諭 飯島 健太
(指) 都留市立都留第一中学校
教頭 三枝 幸一
- (発) 足立区立入谷南中学校
教諭 島田 拓
(指) 東京都教育庁指導部義務教育指導課
指導主事 浅井 剛
- (発) 前橋市立南橋中学校
教諭 清水 彩
(指) 前橋市教育委員会学校教育課主任(兼)指導主事 戸塚 智子

第2分科会(埼玉県、神奈川県、群馬県)
テーマ:生きて働く知識及び技能の定着を目指す指導と評価の工夫(知識・技能の定着)

- (発) 埼玉大学教育学部附属中学校
教諭 蓬澤 守
(指) 埼玉大学教育学部言語文化講座教授 及川 賢
- (発) 鎌倉市立大船中学校
教諭 古屋 幸子
(指) 神奈川県教育委員会教育局子ども教育支援課 教育指導グループ
指導主事 大崎 英樹
- (発) 高崎市立新町中学校
教諭 星河 聖
(指) 高崎市教育委員会学校教育課主査(指導主事) 星野 浩

第3分科会(栃木県、茨城県、群馬県)
テーマ:生徒の思考を促しコミュニケーションを通して課題解決を図る

指導と評価の工夫(思考力・判断力・表現力の育成)

- (発) 足利市立毛野中学校
教諭 石原 敦子
(指) 足利市立坂西中学校
校長 須藤 泰章
- (発) 境町立境第二中学校
教諭 逆井 由紀子
(指) 茨城県県西教育事務所
指導主事 木村 涼子
- (発) 伊勢崎市立四ツ葉学園中等教育学校
教諭 星野 仁美
(指) 伊勢崎市教育委員会学校教育課
指導主事 久保田 純一

第4分科会(長野県、千葉県、群馬県)
テーマ:外国語科の学びのつながりを踏まえた指導の工夫(小中高の接続における中学校の役割)

- (発) 松本市立高綱中学校
教諭 早川 有美
(指) 塩尻市立塩尻中学校
教頭 宮下 智恵美
- (発) 習志野市立第三中学校
教諭 古屋 赳雄
(指) 習志野市教育委員会学校教育部指導課
指導主事 小野 章
- (発) 藤岡市立小野中学校
教諭 佐藤 真一
(指) 群馬県総合教育センター義務教育研究係
指導主事 柳川 祥恵

5 次期開催について

次期は栃木県で開催する。開催の方法については主にオンラインとなる予定。

千代田区

〈神田一橋中学校、麹町中学校〉

区の共同研究会にて、思考力・判断力・表現力の伸長を図る授業実践に関する研究を行った。

I. 授業研究会・校内研修

◇9月22日 授業研究会（麹町中学校）

授業者：小中 啓子 主任教諭

内 容：Sunshine English Course 2
Program 4

講 師：上智大学英文学科非常勤講師

北原 延晃 先生

本校教員の授業とともに、講師の模範授業を参観した。

◇9月28日 校内研修（神田一橋中学校）

授業者：田川 香 主任教諭

小森 宇通 主任教諭

水川 舞 教諭

内 容：「比較表現を使って表わそう」

ICTを活用し、生徒の学習内容理解を深め、定着させる方法について協議した。

〈九段中等教育学校〉

年10回校内研修を行っている。今年度は、高等学校学習指導要領改訂に伴うCAN-DOリストの修正、授業研究、外部講師を招き授業・考査・評価の一体化についての研修会、大学入試問題分析から授業で生徒に身に付けさせる技能と必要な活動についての検討を行った。またコロナ禍中断していた外国人学生によるEnglish Showerを再開し、生徒が多様な英語に触れる機会を増やした。多読活動や英検全員受検にも継続して注力している。今年度は高円宮杯全国大会出場、都英語学会Playの部2位という成績を収めた。

（麹町中学校主幹教諭 駒澤 正人 記）

中央区

I. 研究主題

「ICTを効果的に活用した指導の工夫と実践」

II. 研究の経過

◇4月13日

組織作り・研究主題決定・年間活動計画作成

◇6月22日

スピーキングテスト検討

ALTのスピーキングテストの実践の紹介

◇9月7日 オンライン講演会：

益々求められる大海で泳ぐための英語教育

講 師：上智大学名誉教授

日本英語検定協会会長

吉田 研作 先生

◇10月12日

研究授業指導案検討

◇10月上旬～12月中旬

スピーキングテスト実施

◇11月9日 第2学年研究授業

授業内容：New Crown 2

Lesson 5

Things to Do in Japan

授業者：弭間 省吾 教諭（晴海中）

講 師：豊島区立千歳世橋中学校

主任教諭 伊地知 義信 先生

◇2月8日

今年度のまとめ・来年度の予定について

（銀座中学校指導教諭 谷口 了太 記）

港

区

I. 研究主題

「主体的に学習に取り組む態度の育成と評価のあり方」

II. 研究の経過

- ◇ 4月20日 組織編制、年間計画立案
- ◇ 6月1日 研修会
講演 「主体的に学習に取り組む態度の育成と評価のあり方」
講師 石鍋 浩 先生(明海大学教授)
- ◇ 9月7日 研修会
研究授業
授業者 松野麻里恵 (三田中)
授業者 永井友紀子 (三田中)
研究協議会
講師 石鍋 浩 先生(明海大学教授)
- ◇ 11月9日 港区英語発表会
赤坂区民センター区民ホールにて
- ◇ 1月11日 研究のまとめ、次年度引継
研究集録「ひびき」原稿確認
- ◇ 2月1日 港区教育研究会総合発表会
英語部会研究発表
松野 麻里恵(三田中)
前田 宏美 (港南中)

学習指導要領外国語科の目指す生徒像と指導・評価の在り方を解説していただいたことで、指導計画や授業づくりに示唆を与えていただき、充実した会となった。

英語発表会について、昨年度は新型コロナウイルスの感染状況によりオンラインで開催し、限られた環境での発表であったが、今年度は赤坂区民ホールに戻り、生徒たちは多くの聴衆の前で、スピーチ・スキットといった日頃の学習の成果を発表することができた。

(港南中学校主任教諭 前田 宏美 記)

新

宿

区

I. 研究主題

「新学習指導要領を踏まえた指導と授業改善」

- ①主体的・対話的で深い学びの実践
- ②具体的なコミュニケーションの目的や場面、状況を設定し、その中でやりとりを行うことを目指した指導
- ③タブレットを活用した指導

II. 研究の経過

- ◇ 5月11日 春季一斉部会
組織作り、研究テーマと活動計画決定
- ◇ 7月7日 第1回研究授業
授業者 : 本田 耕大 主任教諭
(新宿西戸山中学校)
授業内容 : New Horizon English Course 2
Unit 3 “My Future Job”
講師 : 上智大学外国語学部 教授
和泉 伸一 先生
- ◇ 8月2日 夏季一斉部会
①情報交換
・タブレットの活用事例について
・評価評定について
②講 義 : 「新学習指導要領を踏まえた指導と授業改善」
講師 : 上智大学外国語学部 教授
和泉 伸一 先生
- ◇ 8月5日 新宿区立中学校英語学芸発表会
- ◇ 10月5日 秋季一斉部会
①情報交換
・学習者用デジタル教科書の活用方法
・英語学芸発表会 反省
②講 義 : 「新学習指導要領を踏まえた指導と授業改善」
講師 : 新宿区英語教育アドバイザー
山本 新治 先生
- ◇ 第2回研究授業 (オンライン視聴)
授業者 : 吉島 美樹 主任教諭
(牛込第一中学校)
授業内容 : New Horizon English Course 2
Unit6 “Research Your Topic”
(新宿中学校主幹教諭 山崎 美砂子 記)

文 京 区

I. 研究主題

主體的・対話的な深い学びを引き出すためのスピーキング指導の在り方
～ICTの活用を視野に入れて～

II. 研究の経過

- ◇5月6日 区中研一斉部会
(会場：第一中学校)
研究テーマ、活動方針の決定
副部長、会計、都中英研地区幹事の選出
- ◇10月21日 研究授業
(会場：文林中学校)
録画した授業を視聴し、対面で協議会を行った。
授業者 田辺 大二郎 教諭
(文林中学校)
単元名 1年生 Unit 5 Part 2
- ◇全国英語教育研究団体連合会参加および
区中研一斉部会において情報共有
参加および発表者：進藤 香織 教諭
(第一中学校)
- ◇1月18日 一斉教科部会
(会場：本郷台中学校)
ワークショップ
「Here We Goを使った効果的な指導法」
講 師：東京家政大学教授
太田 洋 先生

III. 取組の工夫

感染症対策に配慮しながら、研究授業、協議会やワークショップを実施した。1月の区中研一斉部会では、文京区で使用する検定教科書の効果的な活用法について、著者による講義と実践的なワークショップが行われた。

(第六中学校指導教諭 田中 久美子 記)

台 東 区

I. 研究主題

「ICTを活用した思考力・判断力・表現力を育成する指導の工夫と授業の実践」

II. 研究の経過

- ◇4月13日 区中研一斉部会
組織編制、研究主題の決定、年間活動計画 他
- ◇5月11日 区中研総会
- ◇6月8日 研修会 →中止
- ◇9月7日 講演
「思考力・判断力・表現力の育成を目指した授業の在り方」
講 師：玉川大学教授
工藤 洋路 先生
- ◇11月2日 区中研一斉授業
授業者：佐川 雅美 教諭
(上野中学校)
単元名：3年 Reading for Fun 1
Zorba's Promise

(桜橋中学校主任教諭 深瀬 智子 記)

墨 田 区

I. 研究主題

「生徒用デジタル教科書を活用した4技能5領域の指導の工夫」

II. 研究の経過

◇4月20日 区中研一斉部会

- ①組織づくり
- ②研究テーマの決定
- ③年間活動計画の検討
- ④研究授業実践校の決定
- ⑤生徒用デジタル教科書について

◇6月29日 第1回研究授業

授業者：久保田 航 主任教諭
松嶋 宏樹 教諭
井坂 昌紀 教諭
(墨田中学校)

单元名：1年 Unit 3

“Club Activities”

講 師：西東京市立ひばりが丘中学校
主任教諭
佐藤 善明 先生

◇8月29日 夏季研修会

講 師：玉川大学教授
工藤 洋路 先生

講 演：生徒の英語表現力を高めるうえでの指導

◇11月30日 第2回研究授業

授業者：柏木 亜由子 教諭
水野 孝昭 教諭
小林 順子 主任教諭
(吾孺立花中学校)

单元名：2年 Unit 6

“Research Your Topic”

講 師：玉川大学教授
工藤 洋路 先生

◇2月8日 区中研発表会

(墨田中学校主任教諭 久保田 航 記)

江 東 区

I. 研究主題

「ICTを活用した思考力・判断力・表現力を育成する指導の工夫と評価」

II. 研究の経過

◇6月1日 区中研一斉部会

- 内容 活動計画、組織作り

◇6月9日

教科交流授業研究の日
深川会場

- 授業者：枝迫 七海 教諭
(深川五中)
- 講 師：武藤 剛 主幹教諭
(有西中)

城東会場

- 授業者：藤田 朱里 教諭
(亀戸中)
- 講 師：水嶋 涼 主幹教諭
(第四砂町中)

◇10月5日

教科交流授業研究の日
深川会場

- 授業者：大川 怜 教諭
(深川三中)
- 講 師：鈴木 知美 主幹教諭
(深川五中)

城東会場

- 授業者：大屋 剛 主任教諭
(南砂中)
- 講 師：野口 美穂子 主幹教諭
(第二亀戸中)

◇10月27日 江東区英語学芸会

- 会 場：江東区文化センター
- 内 容：speech、play、others
- speech優勝者：辰巳中学校の生徒が
都学芸大会に出場

◇12月7日 区中研英語部研究授業

- 授業者：柴野 泰行 主幹教諭
(亀戸中)

◇2月1日 区中研一斉部会

- 内 容 一年間のまとめ
(砂町中学校教諭 長谷川 眞司 記)

品川区

I. 研究主題

「小中連携による英語教育の推進」

II. 研究の経過

- ◇5月11日一斉部会
スタートカリキュラム公開授業
分科会、年間計画
- ◇6月1日講演会
講 演：「品川区が取り組んでいる英語教育について」
講 師：アレン 玉井 光江 先生
(青山学院大学教授)
- ◇7月6日 研究授業、分科会、講演会
低学年分科会
講 師：山本 恵美子 先生
(元大田区立道塚小学校長)
9年生分科会
講 演：「英語スピーキングテストのねらいと指導法」
講 師：東京都教育委員会 国際教育推進担当課長 西貝 裕武 様
- ◇10月12日 研究授業
講 師：アレン 玉井 光江 先生
- ◇11月9日 教科書（デジタル教科書）の活用について
東京書籍・光村図書 担当者
- ◇12月7日 研究授業
講 師：アレン 玉井 光江 先生
- ◇1月11日一斉部会、講演
講 師：太田 洋 先生
(東京家政大学教授)
アレン 玉井 光江 先生
- ◇2月8日研究発表会
講 師：アレン 玉井 光江 先生

(東海中学校 主任教諭 山口 共子 記)

目黒区

I. 研究主題

「3観点での指導と評価の一体化～ICTを活用した指導の工夫～」

II. 研究の経過

- ◇4月27日
研究テーマ、組織の決定
- ◇5月11日
ICTを活用した指導の工夫についての情報共有
- ◇7月6日
講演会
「3観点での指導と評価の一体化」
講 師：熊本大学大学院教育学研究科
准教授 岡崎 伸一 先生
- ◇10月5日
講演会
「ロイロノートの活用方法について」
- ◇11月2日
スピーチコンテスト
参加校：区内区立校9校
講 師：菅原 喜一 先生
(英理女子学院高等学校)
- ◇12月7日
授業研究【2年生】
授業者：田村 藤江 先生
(大鳥中学校)
- ◇2月1日
分科会
小学校、中学校での研究報告
- ◇3月1日
全体会
今年度の研究の発表

(第九中学校教諭 高宮 直子 記)

大 田 区

I. 研究主題

「ICT機器を活用した効果的な指導の工夫」

II. 研究の経過

- ◇4月13日 第1回部会（雪谷中学校）
部員自己紹介、組織編成、研究主題、年間活動計画、研究授業者、連合学芸会等
- ◇7月8日 第1回研究授業
（志茂田中学校）
授業者：日置 彩 教諭
講 師：北原 延晃 先生
（上智大学文学部英文学科非常勤講師）
- ◇10月5日 小中連携教育部会
会 場：高畑小学校
- ◇11月2日 連合学芸会（英語の部）
会 場：大田文化の森 大ホール
発 表：スピーチ31名、プレイ2校
- ◇＜予定＞
2月1日 第2回研究授業(雪谷中学校)
授業者：井上 萌 教諭
講 師：道塚小学校元校長・世田谷区
英語教育推進アドバイザー
山本 恵美子 先生
- ◇引き続き 第2回部会
今年度の総括及び来年度の予定
 - ◆授業改善リーダー
鈴木 唯 教諭
大藪 佳奈 教諭
森川 俊輔 主任教諭
 - ◆BULLETIN-OTA English Today-
「紀要」を年間の研究記録として毎年発行している。今年度は第32号である。

III. 今年度の部員数：99名

（安方中学校教諭 福谷 直樹 記）

世 田 谷 区

I. 研究主題

＜研修内容＞

「指導と評価の一体化を目指して」

～「主体的に取り組む態度の評価方法」～

II. 研究の経過

- ◇5月11日 世田谷区立中学校教育研究会
役員会（梅丘中学校）
- ◇6月1日 前期教育研究会(梅丘中学校)
テーマ：「研究主題について」
- ◇8月8日 夏期研修会（梅丘中学校）
講演会
「適正な評価に向けた指導の在り方」
講 師 東京外語大学大学院 教授
根岸 雅史 先生
- ◇11月1日 後期教育研究会
第33回世田谷区立中学校
英語スピーチコンテスト
（玉川せせらぎホール）
- ◇11月9日後期教育研究会（教科）
（授業研究会）
授業者：山岸 恒一 指導教諭
（三宿中学校）
- ◇3学期 研究会（未定）
（瀬田中学校主任教諭 関根 貴子 記）

渋谷区

I. 研究主題

「生徒の主体性を引き出す指導の工夫」

II. 研究の経過

◇4月27日 区中研一斉部会

組織編制、研究主題、研究授業校の決定

◇10月12日

研究授業者の指導案について協議する。

◇11月2日 研究授業

授業者：小島 竜一 教諭

会場：渋谷本町学園中学校

单元名：NEW HORIZON English
Course 1 Unit 7 Foreign
Artists in Japan

講師：江東区立深川第五中学校

校長 金久保 勝 先生

III. まとめ

今年度は、生徒の主体性を引き出す指導について研究を行った。ALTの活用法、実践事例を含めた講義の受講などを通して、適切な指導についての知識を深めることができた。

(広尾中学校教諭 小菅 直輝 記)

中野区

I. 研究主題

「主体的・対話的で深い学びを実現する授業の工夫～一人ひとりの生徒がiPadを活用した授業の実践と教材開発～」

II. 本年度研究実績

◇研究主題の検討と決定（4月）

◇研修会の企画・運営・実施（5～6月）

講師：中野東中学校

指導教諭 井上 智絵 先生

内容：今年度の研究テーマに沿った授業実践の紹介

◇研究授業の企画（5～10月）

授業者：吉原 脩平 教諭

講師：中野東中学校

指導教諭 井上 智絵 先生

◇連合文化発表会企画・実施（9～11月）

日時：11月3日（木）

内容：生徒によるSpeech Presentation
発表

◇紀要作成（11月～12月）

◇研究発表会・講演会の企画・実施（2月）

III. まとめ

iPadの本格的な活用が始まって2年目となり、生徒がより能動的にiPadを活用することができるようになるための研究を行った。6月の研修では、生徒が授業内でiPadを使って活動する実践事例を多数紹介していただき、10月の研究授業でも、実際にiPadを用いた学習活動の様子を見ることができ、実践的な活用を深めることができた。iPadの効果的な活用のために、多くのアイデアを共有できた有意義な研究会となった。来年度は今回の研究をさらに深め、デジタル教科書の活用と組み合わせた新しいiPadの有効利用法を探りながら、区内すべての英語科教員の指導力向上に役立つ研究会となることを目指し活動する。

(北中野中学校教諭 村野 俊介 記)

杉 並 区

I. 研究主題

「学習指導要領における指導と評価の一体化を目指して」

II. 研究の経過

◇研究授業および研究協議 6月8日

授業者：杉森中学校

飯田 修平 教諭

単元名：NEW HORIZON English

Course 3 Let's Read 1

講 師：前文科省初等中等局視学官

岐阜県大垣市立西部中学校長

山田 誠志 先生

◇夏季研修会 8月22日

- 1 指導と評価の一体化に関する授業研究（授業案の共有・協議、小学校との連携について）

講 師：早稲田大学 教授

折井 麻美子 先生

- 2 インタラクティブによる研修（パフォーマンス活動の計画・指導・評価、ESAT-Jに向けての実践的な授業）

◇子小中合同研究会 10月5日

授業者：井草中学校

久保田 比佐美 主任教諭

単元名：NEW HORIZON English

Course 1 Unit 7

講 師：文科省初等中等局視学官

直山 木綿子 先生

◇杉並区英語学芸会 10月29日

内 容：Speech、Recitation、Reading、Skit

（東田中学校教諭 森 朝美 記）

豊 島 区

I. 研究主題

「3観点での評価方法の工夫と改善」

II. 研究の経過

◇4月13日 区中研一斉部会

- 研究主題の決定
- 研究授業担当校の決定

◇11月16日 区中研英語部会

研究授業

授業者 西池袋中学校

太田 真文 主任教諭

講 師 元文京区立第十中学校

石井 亨 先生

単元名 Here We Go! English Course 1

Unit 6 Cheer up, Tina

◇1月12日 豊島区授業改善推進研修
（外国語科）

テーマ 小中学校の接続を意識した外国語指導の充実に向けて

講 師 明豊中学校

小林 博子 主幹教諭

III. まとめ

今年度は久々に対面での英語部会が実施され、研究授業等も実施となり、意見の交流の機会を増やすことができた。次年度以降も学び合う機会を絶やさず継続していきたい。

（西池袋中学校主任教諭

太田 真文 記）

北

区

I. 研究主題

ICT、スピーキング力向上、3観点などをテーマに各校で研究主題を設定した

II. 研究の経過

◇4月20日(水)

・組織づくり、今年度の活動計画

◇11月16日(水)

授業者：王子桜中学校(研究授業)

小倉 清美 主任教諭

有坂 千歌 教諭

講師：明海大学 教職課程センター

教授 石鍋 浩 先生

北区教育委員会外国語教育アド

バイザー 重松 靖 先生

<第1分科会>

①英語デジタルポートフォリオを利用したパフォーマンステストの充実

②きたコンを活用した個別最適の学びと協働的な学びの充実

③主体的に学習に向かう態度の育成

<第2分科会>

①言語活動における明確な「場面・状況・目的」の設定及び活動の必然性

②きたコンを活用した教材揭示の充実

③主体的に学習に向かう態度の育成

◇1月18日(水)

授業者：滝野川紅葉中学校

土井 宏之 主幹教諭

・きたコン(PC)の英語学習への活用の仕方について

・きたコンの使用例の提示後、実際にデジタル教材を作成し、全体で共有した

(桐ヶ丘中学校主任教諭 松枝 邦夫 記)

荒

川

区

I. 研究主題

「積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成」

～世界につながる荒川の英語教育～

II. 研究の経過

◇4月13日 組織づくり、研究主題決定

◇7月6日

内容：スピーチコンテストの検討会

講演：即興で話すスモールステップ
(語彙指導)

講評：上智大学・愛知淑徳大学

文学部講師 北原 延晃 先生

◇9月14日 研究授業 南千住第二中学校

授業者：南部 大樹 教諭

澤田 真樹子 主任教諭

宮脇 大地 教諭

対象：中学校2年生

単元：New Crown 2 Lesson4 Uluru

◇10月27日 区連合英語発表会

(英語スピーチの部)

場所：サンパール荒川

参加校：10校

最優秀生徒：諏訪台中学校

東京都英語学芸大会に出場

◇11月9日 研究授業 原中学校

指導者：武井 宏樹 教諭

西野 京子 教諭

対象：中学校2年生

単元：New Crown 2 Talk4 一緒に遊園地に行かない？

◇1月18日 小中合同部会

研究授業：第四峡田小学校

授業者：山上 沙耶 教諭

対象：小学校3年生

単元：これなあに？(動物・果物・色・形)
(区小学校Lesson Plan 第3学年Unit9)

講評：聖学院大学人文学部児童学科
特任教授 小川 隆夫 先生

(第三中学校主幹教諭 能美 真弓 記)

板 橋 区

I. 研究主題

「これからの時代に求められる『話すこと』について、発達段階に応じた指導の工夫」

II. 研究の経過

- ◇ 4月13日 区中研一斉部会 (板二中)
- ◇ 6月20日 研究授業
授業者 板橋一中
酒井 恵 主任教諭
小久保 雅史 主任教諭
- ◇ 8月2日 夏季区中研英語部会(上三中)
第1部「教科書を活用した指導と指導を活かした評価」
講 師 文教大学教授
阿野 幸一 先生
第2部「デジタル教科書の活用方法」
講 師 東京書籍編集部
- ◇ 11月9日 一斉研究授業
授業者 赤塚一中 五島 佑介 教諭
講 話
「指導と評価の一体化～主体的に取り組む態度の評価」
講 師 元文部科学省 教科調査官
山田 誠志 先生
- ◇ 11月11日 「英語のつどい」
(成増アクトホール)
- ◇ 2月2日 区中研教職員研究発表会
- ◇ 2月6日 研究授業
授業者 志村四中 矢島 伊織 教諭
講 話「教科書を活用した指導方法」
講 師 明海大学教授 石鍋 浩 先生

区中研収録原稿執筆校

- ① 板橋第五中
- ② 志村第四中
- ③ 上板橋二中
- ④ 赤塚第三中

(高島第二中主幹教諭

永原 佳代子 記)

練 馬 区

I. 研究主題

「基礎・基本の定着を図り、主体的・対話的で深い学びの実現を通してコミュニケーションを図る資質・能力を育成する。」

II. 研究の経過

- ◇ 5月18日 一斉部会
(オンラインで開催)
- ◇ 6月22日 英語部会
TOKYO GLOBAL GATEWAY内覧、
プログラム体験
各ブロック研究授業は中止
- ◇ 7月21日・7月22日 夏期研修会
(練馬区立生涯学習センター)
*「母語から始める英語学習／教育」
講 師：慶応義塾大学名誉教授
大津 由紀雄 先生
*「グローバル人材の育成～発信力を高めよう～」
講 師：東京都教育庁指導部国際教育推進担当課長 西貝 裕武 先生
- ◇ 10月22日 第58回英語学会
(練馬区立生涯学習センター)
都大会出場校：石神井中学校
“The Secret Garden”
- ◇ 11月9日 研究授業 (貫井中)
授業者：遠藤 康子 主任教諭
対 象：中学2年生
単 元：Daily Life Scene 7 観光案内
(Here We Go! English Course 2)
講 師：前東京家政大学教授
小泉 仁 先生
- ◇ 2月8日 発表会 (練馬中学校)
(1) 全国英語研究大会 参加報告
(2) 英語部自主研修会 報告
(3) 講演
講 師：文部科学省国立教育政策研究所
名誉所員 渡邊 寛治 先生
(大泉学園桜中学校主任教諭
中尾 真紀 記)

足立区

I. 研究主題

「足立スタンダードに基づく授業づくり
～指導と評価の一体化を目指して～」

II. 研究の経過

- ◇4月13日 区中研一斉部会〔第七中〕
 - 研究主題、計画、組織の決定
 - ESAT-Jについて情報共有
 - 英語教育推進校（東綾瀬中、蒲原中）の
実践報告
- ◇6月8日 役員会〔Google Meet〕
 - 予定の確認、研修会の準備
- ◇7月13日 ワークショップ〔第七中〕
「中学校英語スピーキングテスト
(ESAT-J)を踏まえた『話すこと』の指
導」
- ◇9月14日 小中合同研修会
＜小学校主催＞
→ 参加なし（感染拡大防止）
- ◇10月12日 小中合同研修会
＜中学校主催＞〔Google Meet〕
「これからの英語教育～指導と評価の一
体化を目指して～」
講 師：明海大学教授 石鍋 浩 先生
- ◇10月25日 連合英語学会
〔西新井文化ホール〕
 - スピーチ、落語、劇
- ◇12月7日 研修会〔第四中〕
「テストニングに関するディスカッション」
- ◇1月25日 区中研一斉部会〔第七中〕
 - 活動報告、講演会
「新しい観点に基づく指導と評価」
講 師：玉川大学教授
工藤 洋路 先生
- ◇2月8日 役員会
 - 令和5年度研究主題、計画、組織の案
作成

〔鹿浜菜の花中学校主任教諭

田崎 朋 記〕

葛飾区

I. 研究主題

「新学習指導要領の趣旨に則った適正な
評価評定について」

II. 研究の経過

- ◇5月11日 葛中研英語研究部会
組織・研究テーマ・事業計画案提示
- ◇6月18日 葛中研一斉部会
授業者：奥戸中学校
田島 大介 主任教諭
- ◇7月27日(水)～29日(金) 2泊3日
葛飾区中学生イングリッシュキャンプ
(於: British Hills)
葛飾区内中学校から94名の生徒が参加
- ◇10月15日 第37回葛飾区立中学校英語
スピーチ&プレイコンテスト
(於：かつしかシンフォニー
ヒルズ アイリスホール)
※本年度はプレイ部門1校、スピーチ部
門24名、レシテーションの部2名が参
加
- ◇11月7日 葛中研英語研究部会
授業者：綾瀬中学校
黒田 富美子 主任教諭
栗原 繁子 主任教諭
- ◇1月31日 葛中研英語研究部会
授業者：上平井中学校
寺本 孝司 主任教諭
- ◇3月役員会（予定）

（金町中学校教諭 高山 翔 記）

江戸川区

I. 研究主題

「英語を用いて主体的にコミュニケーションを図る資質・能力の育成」

II. 研究の経過

◇6月8日（水） 区中研一斉部会

1. 研究授業

Sunshine English Course 2

Program 2 “Leave Only Footprints”

授業者：安藤 大 教諭

（瑞江中学校）

2. 講演

「Retellの扱い方とその評価」

講師：田村 岳充 先生

（宇都宮大学教職大学院助教）

◇夏季研修会 →中止

◇10月27日（木） 研修会

研究授業

New Horizon Elementary English Course 5

Unit 6 “What would you like?”

授業者：中村 啓子 指導教諭

（西小岩小学校）

◇2月8日（水） 区中研一斉部会

講演

「教科書1単元、1パートの指導展開

～Oral Introduction、音読から

リテリングへ（仮）」

講師：溪内 明 主任教諭

（文京区立本郷台中学校

都中英研 研究部部长）

（小岩第四中学校長 鈴木 訓文 記）

八 王 子 市

I. 研究主題

「学習指導要領に対応した授業づくり及び学習評価」

II. 研究の経過

- ◇4月13日
英語部教科主任会（第五中）
- 方針、研究テーマ決定
 - スピーキングテストに向けて
- ◇8月8日
TOKYO GLOBAL GATEWAY 視察（希望者）
- ◇11月9日
一斉部会研究授業
- 第一ブロック（第一中）
授業者：島崎 さやか 教諭
指導、講評：宮崎 大樹 主任教諭
（日野第一中 都中英研調査部員）
 - 第二ブロック（恩方中）
授業者：久米 奈々美 教諭
指導、講評：佐藤 ひろみ 教授
（順天堂大学 国際教養学部）
 - 第三ブロック（七国中）
授業者：原島 雄大 教諭
指導、講評：工藤 洋路 教授
（玉川大学 文学部英語教育学科）
 - 第四ブロック（別所中）
授業者：高巢 桃子 教諭
指導、講評：高瀬 ひとみ 主任教諭
（都立白鷗高等学校中学部 都中英研調査部部長）
- （四谷中学校教諭 山本 優子 記）

立 川 市

I. 研究主題

「社会の変化に対応し、学び続ける生徒の育成を目指して」

II. 研究の経過

- ◇5月11日 教科研究部会
研究内容・活動計画決定
- ◇8月22日 夏季研修会
- 研究授業に向けた意見交換と講演
講 師：千代田区立九段中等教育学校
主任教諭 荒川 高広 先生
講 演：「新しい学習指導要領における評価の在り方とテストづくり」
- ◇10月5日 研究授業
- 授業者：平柳 陽子 教諭
対 象：立川第三中学校 1年生
単元名：NEW HORIZON Unit 6
“A Speech about My Brother”
講 師：文教大学国際学部
教授 阿野 幸一 先生
講 演：「主体的に学習に取り組む態度の評価について」
- ◇2月15日 立中教研一斉研究発表会

III. 成果と課題

- 夏の研修では、10月の研究授業に向けて全員が研究授業の単元について発表し合うことにより、効果的な導入方法や言語活動について理解を深めることができた。
- 教科書の使い方について、単元を進めていく中で、生徒が間違ったときに以前の単元に戻りその内容を参照することで新たな気づきを得るという考え方を学んだ。
- 「主体的に学習に取り組む態度」の客観的な評価方法について、今後も検討していく必要がある。
（立川第九中学校主幹教諭

岡田 佳代子 記）

武 蔵 野 市

I. 研究主題

「新学習指導要領全面实施2年目における小中連携」

II. 研究の経過

- ◇ 8月3日 英語スキルアップ研修
「T1としてALTと一緒に英語で授業を進めるために必要な英語力を高める研修」
- ◇ 10月12日 授業研究1 小学校第5学年
単元名：Here We Go!⑤ Unit 5
授業者：千川小・高草木 ひろ子 教諭
講 師：東京都大学付属小学校
英語科講師 永井 淳子 先生
- ◇ 11月8日 講演・ワークショップ
「発音と文法の苦手が消えるお祭り英語
能動学習 こもれび教授法～アルファ
ベットのアクティブラーニング」
講 師：元公立中学校英語科教員・和光
大学教授 阿原 成光 先生
- ◇ 1月18日 授業研究2 中学校第2学年
単元名：Lesson 7 現在完了
授業者：第五中学校 根岸 桜 教諭
鈴木 健太 教諭

III. 成果と課題

新指導要領の基、小中それぞれ様々な授業が工夫され学びが深まっている。同時に互いの内容の把握や子どもの実態の引き継ぎなど多くの課題も常に残されているのが現状である。しかし小中（及びそれ以外）を問わず求めていきたい外国語の学びの姿は変わらぬものがあるはずである。それを追い求める視点、よりよいことばの学び・外国語学習に向けて、これからも皆で追求していきたいものである。

(第六中学校教諭 安部 直子 記)

三 鷹 市

I. 研究主題

「発達段階に応じたコミュニケーション能力の育成～ICTを活用した指導方法の工夫～」

II. 研究の経過

- ◇ 4月13日 組織決めと年間活動計画
- ◇ 6月8日 小・中合同研究授業
単元名：Unit 2 Our School Trip
授業者：中林 拓 教諭
(第六中学校)
- ◇ 9月7日 TOKYO GLOBAL
GATEWAY
(東京都英語村)
Native speakersによる英語コミュニケーション研修。小・中別にグループに分かれ、児童・生徒と同じ立場で、校種(レベル)に合わせたプログラムを体験した。
- ◇ 10月5日 高山小学校にてワールドカフェ形式による協議会
講 師：三鷹市立高山小学校 校長
吉村 達之 先生
- ◇ 1月11日 小・中合同研究授業
単元名： Unit 8 What's this?
～これなあに?～Let's Try 1
授業者：坪井 梓 主任教諭
(高山小学校)
講 師：文部科学省視学官
直山 木綿子 先生
- ◇ 2月8日 本年度の研究の成果と課題、来年度に向けた活動内容の協議及び講話
講 師：三鷹市立高山小学校 校長
吉村 達之 先生

(第五中学校教諭 森口 亮 記)

青 梅 市

I. 研究主題

「主体的に学習に取り組む態度を見取るための指導方法の研究」

II. 研究の経過

◇5月11日 全体会及び各研究部会

全体会講師：東京都教育庁指導部義務
教育指導課統括指導主事
小野田 聖 先生

講 演：「主体的に学習に取り組む態度
を見取るための理論と具体的実
践」

◇7月12日 授業研究

授業者：西中学校 中根 里緒奈 教諭
「話すこと」を中心とした授業
展開を行った。

◇8月26日

研修会講師：中野区立中野東中学校
指導教諭
井上 智絵 先生

ワークショップ：「話すこと」を中心と
した演習及び協議会

◇10月26日 研究授業及び協議会

講 師：東京都教職員研修センター研修
部教育開発課指導主事
野寄 篤子 先生

講 演：「主体的に学習に取り組む態度
を見取るための指導方法の研
究」

◇3学期研究授業実施予定（日時未定）

III. 取組の工夫

◇Jam boardの活用

協議会では、各自の意見・疑問点等を
Jam boardに入力して全員にその場で公
開し、時間の効率化を図った。

◇研修、各校教員の情報共有

Google Classroomを作成し、授業のアイ
デアや日頃の悩み等を共有できた。

（吹上中学校副校長 佐藤 正和 記）

府 中 市

I. 研究主題

「実践的な指導力の向上」

II. 研究の経過及び内容

◇4月13日 部員総会

自己紹介・研究主題・年間研究計画等

◇5月11日 講義

「新学習指導要領の評価について」

講 師：武蔵野市立第五中学校 校長
刀根 武史 先生

◇8月4日 ワークショップ 光村図書

◇9月7日 授業研究

授業者：第十中学校 蒔 賞子 教諭
講 師：東京都教育庁指導部義務教育
指導課指導主事
早川 裕之 先生

◇10月12日 講義

「指導と評価の一体化に向けた教科書
を使った授業について」

講 師：東京家政大学教授
太田 洋 先生

◇11月9日 ワークショップ

「ALTとのティームティーチングにつ
いて」

◇1月11日 授業研究

授業者：第九中学校 深澤 望水 教諭
講 師：東京都教育庁指導部義務教育
指導課指導主事
早川 裕之 先生

◇2月1日 研究発表会

◇3月8日 役員の引継ぎ

（府中第二中学校教諭 菅沼 愛里咲 記）

昭 島 市

I. 研究主題

- 「話すことを意識した授業実践」
- 「主体的な取組に対する指導と評価」

II. 活動報告

- ◇ 4月13日(水) 総会 オンラインで実施
- ◇ 5月11日(水) 教科部会
 - 研究主題の設定
 - 英検(市主催)の公費受験について
 - E-SATJに向けての各校の取組
- ◇ 9月10日(土)「未来をひらく発表会」にてスピーチコンテスト
- ◇ 10月5日(水) 研究授業
 - 内 容：研究授業、協議
 - 授業者：拝島中学校 大宅 完志 教諭
 - 内 容：Lesson 6 Discover Japan NEW CROWN English Series 1
 - 形 態：各校1名は授業実施教室で参観。
 - 講 評：コロナ禍での音読活動を工夫しながら、生徒一人一人が意欲的に発話しようとしている授業展開について、意見共有することができた。

III. 取組の工夫

- ◇ 話すことを意識した授業実践
 - ベアワークでの英会話活動
 - パフォーマンステストの実施
 - 音読活動(カードの使用やレベル別での実施)
 - ALTとの会話の充実
- ◇ 主体的な取組に対する指導と具体的な評価
 - パフォーマンステストにおいて、豊かな表現を使って伝えようとする力を評価。
 - パフォーマンステストにおいて、振り返る力を評価。
 - ミニテストへ取り組もうとする力を評価。
- ◇ 2月8日(水) 教科部会
 - 今年度のまとめ

(福島中学校教諭 井嶋 香里 記)

調 布 市

I. 研究主題

- 「表現力を高める指導の工夫
- スピーキングテストの導入に向けて-

II. 研究の過程

- ◇ 5月11日 第1回研究部会
 - 研究主題設定・組織作り
- ◇ 6月8日 第2回研究部会
 - 表現力を高める指導の工夫について
 - ESAT-Jに対する取組について
- ◇ 10月5日 第3回研究部会
 - 内 容：研究授業、講演、協議
 - 授業者：福永 喜史 教諭
 - 授業内容：Unit5 We All Live on the Earth
 - 講 師：加藤 真由子 指導教諭
(調布市立第五中学校)
- ◇ 11月9日 第4回研究部会
 - 内 容：研究授業、講演、協議
 - 授業者：佐々木 健 教諭
 - 授業内容：Lesson5 Things to Do in Japan
 - 講 師：川村 光一 先生
(さとえ学園小学校)
- ◇ 1月18日 第5回研究部会
 - 研究のまとめ、今後の課題
- ◇ 2月 紙上発表

(第四中学校教諭 泉原 花奈子 記)

町 田 市

I. 研究主題

「学びに向かう力を育むための指導と評価」

II. 研究の過程

- ◇4月13日 第一回一斉部会
内 容：組織作り
研究主題の設定
年間活動計画の確認
- ◇8月24日 教科部会（任意参加）
会 場：武蔵岡中学校
内 容：光村図書（教科書会社）による『デジタル教科書の効果的な使い方』講演
- ◇10月26日 第二回一斉部会
内 容：研究授業・グループ協議・講話
会 場：南大谷中学校
授業者：勝峰 夏 教諭
授業単元：Here We Go! English Course 1
Unit5 “This Is Our School”
講 演：「学びに向かう力を育むための指導と評価①」
講 師：玉川大学大学院教育学研究科
准教授 西村 秀之 先生
- ◇1月25日 第三回一斉部会（予定）
内 容：研究授業・グループ協議・講演
会 場：真光寺中学校
授業者：森沢 俊彦 教諭
講 演：「学びに向かう力を育むための指導と評価②」
講 師：玉川大学大学院教育学研究科
准教授 西村 秀之 先生

（忠生中学校主任教諭 中山 文 記）

小 金 井 市

I. 研究主題

「読み物教材を活かした魅力ある授業とその評価」

II. 研究の経過

- ◇4月20日 研究主題・年間計画の作成
- ◇6月8日 研修会
Readingの授業について
- ◇10月5日 研究授業
授業者：畔上 翔人 先生
会 場：緑中学校
題 材：A Pot of Poison
- ◇11月9日 パフォーマンステストについて各校の取組について意見交換
- ◇1月18日 講演
「読むことを通して思考・判断・表現を見取る活動について」
会 場：緑中学校
講 師：国分寺市立第五中学校
指導教諭 前川 卓哉 先生

(緑中学校教諭 近藤 正子 記)

小平市

I. 研究主題

「ICTを活用した主体的な学びの充実」

II. 研究の経過

◇4月20日 教科等研究会総会

内 容：第1回英語科部会
組織づくり、研究主題の設定、
研究計画の作成

◇8月1日 夏季研修会
(小平市立上水中学校)

講 師：太田 洋 先生
(東京家政大学 教授)

講 演：ICTを活用した主体的な学びの
充実

内 容：主体的な学びの充実の為には、
生徒自身が自分なりのゴールを
設定し、工夫しながら学び、振
り返るといふPDCAサイクルを
取り入れる事、その際にICTを
活用できることを学んだ。

◇9月7日教科等研究会

会 場：小平市立上水中学校
授業者：尾形 雄貴仁 主任教諭
福丸 諒 教諭
大衆 頌平 教諭
対 象：中学2年生 (少人数クラス)
単 元：New Crown 2 Lesson4 get Part2
“Uluru”
講 師：太田 洋 先生
(東京家政大学 教授)

内 容：ICTを活用した授業においても、
一斉⇔個別⇔ペアワーク、グ
ループワークという指導の流れ
は基本として押さえるというこ
となどを学ぶことができた。

III. 成果と課題

主体的な学びには、生徒がどのような姿
あるかを具体的に想定する必要がある。目
標に向かってどう達成するか、単元末で何
ができるようになっていくかのイメージを
はっきりともち、ICTを活用しながら生徒
が受け身でない授業実践を積んでいく必要
がある。

(小平第五中学校主任教諭 中村 恵 記)

日野市

I. 研究主題 (昨年度のテーマを継続)

「即興の発話を促す授業作り」
～主体的な学びを促す評価のあり方～

II. 研究の経過

◇5月11日 中教研総会：組織作り

◇6月8日 研究授業：七生中・1年
授業者：渡邊 愛沙美 教諭
Here We Go!①

U3『Enjoy the Summer』
Part1「夏休みの過ごし方」

目 標：普段見るテレビに番組について
Whatを使って会話することが
できる

◇7月11日 研究授業：日野第三中・2年
授業者：関渥 平 教諭
Here We Go!②

U4 Part1「どこに行きたい」

目 標：夏休みに行きたい場所について
伝えあったり書いたりするこ
とができる

◇8月22日 夏季研修：事例報告と講演
講 師：東京家政大学教授
太田 洋 先生

各校が、語彙指導かパフォーマンステ
ストの評価表の資料を持ち寄り、5分程度
の発表を行い、講師の太田先生からご助言を
頂いた。後半は、太田先生が撮影された授
業ビデオで、即興の発話を引き出すための
指導技術をご指導して頂いた。

◇9月7日 小中連携：日野第六小・3年
授業者：岸 清子 教諭
Let's Try!

Unit5 “What do you like?”

目 標：What～do you like?に慣れ親しむ
講 師：横浜国立大学教授
尾島 司郎 先生

◇10月5日 研究授業：日野第四中・1年
授業者：高橋 豪 教諭
Here We Go!①

U5『This is Our School』

目 標：「Where～?の表現とその答え方
を使い、正しく理解する。」

講 師：国分寺市立第十小学校
指導教諭 相沢 秀和 先生

◇11月10日 小中連携：日野第八小・4年
授業者：洞口 早希 教諭
ONE WORLD Smiles L9 "This
Is My Day"

目 標：「日課を表す表現に慣れ親しむ」
(日野第二中学校主任教諭 佐藤 真雄 記)

東 村 山 市

I. 研究主題

「新学習指導要領における評価と実践」

II. 研究の経過

- ◇5月11日 統一部会
(東村山第七中学校)
- ◇6月8日 三省堂 実践交流
(東村山第七中学校)
- ◇7月6日 意見・情報交換
(東村山第七中学校)
- ◇9月7日 講演会
講 師：Tokyo Global Gateway
(東村山第七中学校)
- ◇10月5日 実践交流
(東村山第七中学校)
- ◇11月9日 講演会
講 師：教育庁統括指導主事
早川 裕之 先生
(東村山第七中学校)
- ◇12月7日 研究授業
(東村山第七中学校)
- ◇1月11日 実践交流
(東村山第七中学校)
- ◇2月8日 情報交換
(東村山第七中学校)
- ◇3月8日 今年度のまとめ
(東村山第七中学校)

(東村山第七中学校教諭 高水 秀樹 記)

国 分 寺 市

I. 研究主題

「指導と評価一体化」のための新しい観点による学習評価について～主体的に学習に取り組む態度を中心に～

II. 研究の経過

- ◇4月13日 一斉部会
- ◇6月1日 講演会
講 師：国士舘大学 教授
五十嵐 浩子 先生
- ◇10月5日 研究授業
授業者：前川 卓哉 指導教諭
(第五中学校)
- ◇1月11日 一斉部会
研究のまとめ
研究授業を通して「主体的に取り組む態度」の指導方法の工夫を共有できた。

(第四中学校主任教諭 大石 正隆 記)

国 立 市

I. 研究主題

主体的にコミュニケーション能力を高めようとする児童・生徒の育成

II. 研究の経過

- ◇ 4月20日（水）
組織編成・主題設定
- ◇ 5月25日（水）
6月研究授業指導案検討
- ◇ 6月22日（水）研究授業
授業者：国立第二小学校
主任教諭 小池 美波
ALT 和田 愛
講 師：聖学院大学人文学部児童学科
特任教授 小川 隆夫 先生
- ◇ 7月21日（木）
11月公開授業指導案検討
- ◇ 9月7日（水）
11月公開授業指導案検討
- ◇ 11月9日（水）公開授業
授業者：国立第二中学校
教諭 須山 明美
講 師：聖学院大学人文学部児童学科
特任教授 小川 隆夫 先生
- ◇ 1月18日（水）
研究授業の振り返り・研究紀要作成協議

(国立第一中学校教諭 兼近 優歩 記)

福 生 市

I. 研究主題

「主体的に学び続ける児童・生徒の育成」
～義務教育9年間で育む資質・能力を共有した授業実践を通して～

II. 研究の経過

- ◇ 4月20日
役員選出
部会取組方向・取組内容決定
年間計画作成
- ◇ 5月11日
研究授業指導案検討
- ◇ 6月22日
研究授業Ⅰ：福生第五小学校
授業者：吉田 芽生 教諭
内 容：「We have Children's Day in May.」
講 師：立川市立若葉台小学校副校長
阿部 梢 先生
- ◇ 9月12日
研究授業指導案検討
- ◇ 10月5日
研究授業Ⅱ：福生第一中学校
授業者：狩野 咲子 教諭
内 容：「My Activity Report」
講 師：教育庁指導部義務教育指導課
統括指導主事
早川 裕之 先生
- ◇ 2月8日
研究報告会

(福生第二中学校指導教諭

寺沢 陽子 記)

狛 江 市

I. 研究主題

「対話力を重視した実践的な学びの実現」

II. 研究の経過

- ◇4月 年間計画の作成
研究主題設定、組織作り
- ◇5月 総会・部会
- ◇7月 運営委員会
共通研究課題、活動の確認
部長会
研究主題、研究授業校、
年間活動計画、会計事務の確認、
- ◇9月 研究授業・協議会・研修会
会 場：狛江第四中学校
授業者：西尾 裕子 教諭
清水 由紀乃 主任教諭
菅原 有依子 主任教諭
対 象：2年A・B組
単 元：Here We Go English Course 2
Unit 5 Earthquake Drill
講 師：太田 洋 先生
(東京家政大学教授)
- ◇11月 運営委員会
 - 活動状況及び予算執行状況などの報告
 - 部長会
 - 研究・活動報告書の作成について
 - 報告会の内容、来年度中教研日程
- ◇2月 研究活動報告会

III. オンラインスピーキングトレーニング (株)ベネッセコーポレーションによる オンライン英会話体験学習 全校実施

(狛江第一中学校主任教諭
榎本 貴子 記)

東 大 和 市

I. 研究主題

「スピーキング力を高めるための教科書
を活用した指導法」

II. 研究の経過

- ◇5月11日 教育研究会
内 容：研究主題の検討、活動計画の作成
- ◇7月21日 夏季研修会（講演）
講 師：東京都立両国高等学校附属中学校
壽原 友理子 先生
内 容：スピーキング力を高めるための
指導
- ◇10月5日
 - 研究授業
東大和市立第五中学校第1学年
授業者：佐藤 航 教諭
内 容：スピーキング力を高めるため
の授業
 - 指導、講評
講 師：元東京都立両国高等学校附属
中学校
杉本 薫 先生
- ◇11月9日 教育研究会
内 容：•「スピーキング力を高めるた
めの指導」に関する実践報告
及び協議
•研究のまとめ

(第五中学校主任教諭 玄應 桃子 記)

清 瀬 市

I. 研究主題

「外国語における『深い学び』を生み出す授業づくり」

II. 研究の経過

- ◇4月20日 教育研究会
会 場：清瀬第二中学校
内 容：研究主題の設定、年間活動計画の作成、情報交換
- ◇6月29日 教育研究会
会 場：清瀬第三中学校
内 容：デジタル教科書を活用した授業づくりについての講義
講 師：東京書籍株式会社 英語編集部 河村 稀琳 様
- ◇10月26日 授業研究会及び協議会
授業者：中村 俊貴 教諭
会 場：清瀬第三中学校
※授業はビデオで事前に撮影
内 容：Lesson 5 "I Have a Dream"
NEW CROWN 3
講 師：立川市立立川第三中学校長 今本 由美子 先生
- ◇2月8日 研究報告
(清瀬第三中学校教諭 中村 俊貴 記)

東 久 留 米 市

I. 研究主題

- 学習目標に対して、生徒が主体的に学ぶための工夫
- 指導と評価の一体化を目指した指導方法の改善

<研究内容>

- 1 スピーキングテストを想定した発話の実践
- 2 異文化としての外国語を習得する実践

II. 研究の経過

- ◇5月11日 市授業改善研
(全体会・分科会)
研究主題・情報交換
- ◇6月29日 市授業改善研
(分科会)
指導案検討
- ◇9月7日 研究授業
下里中学校3年生
授業者：宮治 知央 教諭
講 師：元板橋第二中学校長 大沼 文雄 先生
- ◇2月8日 市授業改善研
研究報告
(中央中学校主幹教諭 三田村 規子 記)

武蔵村山市

I. 研究主題

「デジタル教科書を使用した指導方法について」

II. 研究の経過

◇4月20日 中教研第1回部会

- 研究主題設定
- 組織編成
- 年間計画

◇11月2日 中教研第2回部会

研修会

講師：武蔵野市立第六中学校 教諭
安部 直子 先生

テーマ：「デジタル教科書を使用した指導方法について」

◇2月8日 中教研第3回部会

研究授業及び協議会

第一中学校2年生

授業者：小暮 裕佳里 教諭

単元名：NEW HORIZON 2 Unit 7

World Heritage Sites

- 日本の世界遺産について、海外の人に紹介するポスターを作ることができる。

(第一中学校教諭 安川 優季 記)

多摩市

I. 研究主題

東京都でスピーキングテストを高校入試に取り入れることに向けて、「話すこと」における日頃の指導と評価の方法について

II. 研究の経過

◇5月11日(水) 第1回

内容：自己紹介、今年度の活動方針、基調講演(学びに向かう力の評価について、ルーブリック評価について)

◇8月25日(木) 第2回

講師：工藤 洋路 先生
(玉川大学文学部教授)

講演：スピーキング活動の指導と評価について

◇11月8日(火) 第3回

講師：投野 由紀夫 先生
(東京外国語大学 教授
ワールドランゲージセンター
センター長)

講演：「話すこと」における日頃の指導と評価の方法について。

(東愛宕中学校主任教諭

小林 義知 記)

稲 城 市

I. 研究主題

「タブレットを利用した効果的な学習法の提案」

II. 研究の過程

- ◇ 4月13日 一斉部会
場 所：稲城第五中学校
内 容：研究主題と年間活動計画の作成
- ◇ 5月11日 事前授業研修
(研究校への研究授業における提案)
場 所：各自所属校
内 容：研究授業で活用できる事例を提出
- ◇ 6月8日 実技研修
(㈱ハートコーポレーションによる)
場 所：稲城第五中学校
内 容：タブレットを利用した活動紹介
- ◇ 8月24日 指導案検討
場 所：稲城第五中学校
内 容：研究授業の指導案検討
- ◇ 9月14日 研究授業・協議会
場 所：若葉台小学校
内 容：第6学年「I went to Hawaii」
川口 大輔 先生
- ◇ 10月14日 研究授業・協議会
場 所：稲城第六中学校
内 容：第3学年「修学旅行のスピーチ」
遠藤 龍斗 先生
- ◇ 11月9日 研究授業・協議会
場 所：南山小学校
内 容：第4学年「What do you want?」
並木 隆浩 先生
- ◇ 1月18日 研究のまとめ
場 所：稲城第五中学校
- ◇ 2月15日 研究発表会
場 所：稲城第五中学校

(稲城第二中学校教諭 新開 隆 記)

羽 村 市 ・ 西 多 摩 郡

I. 研究主題

「タブレットを活用し、生徒の意欲を引き出す工夫」

II. 研究の経過

- ◇ 5月11日 役員会及び一斉部会
会 場：日の出町立平井中学校
- ◇ 8月19日 夏季研修会
会 場：瑞穂町立瑞穂中学校
講 師：帝京大学 奥住 桂 先生
内 容：各校の実態に応じたGIGA端末の効果的な活用方法
- ◇ 11月2日 研究授業
会 場：瑞穂町立瑞穂第二中学校
授業者：河野 美紗 主任教諭・ALT
対 象：3年生
主な内容：仮定法を使って「もし自分がドラえもんの友達だったら」について話す協議及び奥住 桂 先生 による講評

(瑞穂町立瑞穂中学校主任教諭

梅田 篤 記)

あきる野市

I. 研究主題

「適切なICT機器の活用を通して、思考力・判断力・表現力のさらなる充実をはかるための授業づくり」

II. 研究の経過

◇4月27日（水）市中教研一斉部会

会 場：東中学校

活動内容：1 三役決定
2 今年度の研究主題決定
3 一斉授業研究会の予定

◇6月1日（水）市中教研英語部会

会 場：五日市中学校

授 業 者：高岡 雅人 主任教諭
坂田 光一 教諭

授業内容：Unit 2 “Traveling Overseas”
指導講評：青梅市立吹上中学校
校長 田中 明子 先生

◇10月5日（水）小中合同研究会

会 場：秋多中学校

授 業 者：高崎 夏帆 教諭
授業内容：Unit 6-1「ぼくのおじいさん」
講 師：あきる野市立増戸小学校
校長 永曾 久美子 先生

◇1月18日（水）市中教研英語部会

会 場：西中学校

授 業 者：山口 由佳 教諭
船木 和 教諭

授業内容：「日本・世界の祭りのプレゼンテーション」

講 師：あきる野市立御堂中学校
副校長 板山 寛久 先生

III. 成果と課題

部会では、ICT機器の活用について情報を交換、共有し、研究主題を深めた。都立入試に導入されたスピーキングテストの対策は、タブレットを使用し、都が推奨するWebサイトなどを見て、トレーニングして、発話力を高めた。

（東中学校主幹教諭 和久利 幸子 記）

西 東 京 市

I. 研究主題

「コミュニケーション活動のさらなる充実～現行学習指導要領及び小中一貫教育の実施のもと～」

II. 研究の経過

◇5月11日 第1回部会

会 場：保谷中学校

活動内容：1 組織の決定
2 研究テーマの決定
3 年間活動内容の決定

◇11月9日 第2回部会

①研究授業

会 場：田無第四中学校

授業者：丹生 幸宣 教諭（1学年）

单元名：Unit 7 Foreign Artists in Japan

授業者：三木 初香 教諭（3学年）

单元名：Unit 6 Beyond Borders

②研究協議会

③講演

「中学英語の定着を目指した小中高大の連携」について

講 師：東京学芸大学 准教授

臼倉 美里 先生

④質疑応答

⑤情報交換

III. 成果と課題

コミュニケーションのさらなる充実に向けて、コミュニケーション活動の実践、生徒同士の学習活動、評価方法について情報を交換、共有し研究を深めた。

次年度は、さらに小中連携に焦点を当てつつ、段階的に表現力が身に付く効果的な指導法の研究を進めたい。

（ひばりが丘中学校主任教諭

佐藤 善明 記）

大 島 町

I. 研究テーマ

「小中連携を生かした指導の工夫」

II. 研究の経過

- ◇5月18日 研究協議会
会 場：第一中学校
活動内容：三役決定／今年度の研究主題決定
- ◇10月12日 小学校授業ビデオ研究
会 場：第一中学校
活動内容：つつじ小学校教員とALTとの授業をビデオにて研究
- ◇11月22日 中学校授業ビデオ研究
会 場：第一中学校
活動内容：スピーキングテストに向けた各学校の取組をビデオにて研究
- ◇1月18日 研究のまとめ

III. 成果と課題

- 今年度も、小学校・中学校共に授業の様子をビデオで研究する取組をした。小学校の授業では、スピーキング活動に力を入れていることが分かった。授業者も英語で生徒に指示をするなど、授業の中で英語が使われている時間がとても多かった。中学校でも同様に授業の中での英語の使用率を増やしていきたい。
- 中学校授業ビデオ研究では、スピーキングテストに向けた各校の取組についてビデオを撮り確認をした。各校、テストに向けた取組を授業の中で指導するのは初めてであるため、沢山の考えを共有することができた。ただ、授業の中で指導する時間を取ってしまうと、授業時間がかなり減るため、来年度の指導法も考える必要がある。

(第二中学校教諭 井上 悦子 記)

八 丈 町

I. 研究主題

「コミュニケーション能力を活用できる児童・生徒の育成」
～発達段階に応じた指導の工夫～

II. 活動の経過

- ◇5月11日 第1回部会
研究主題、活動計画、組織づくり、研究授業担当地区決め、物品購入検討
- ◇7月11日 第2回部会
 - ①研究授業
会 場：三原小学校
対 象：第3学年
授業者：佐藤 玲子 主任教諭
Tyler Martin ALT
 - ②協議
 - ③情報交換
- ◇11月16日 第3回部会
 - ①研究授業
会 場：富士中学校
対 象：第2学年
授業者：辻 賢哲 教諭
 - ②協議
 - ③情報交換
- ◇1月18日 第4回部会
 - ①研究授業
会場：大賀郷小学校
対象：第6学年
授業者：小林 大地 教諭
David Kim ALT
 - ②協議
 - ③年度末反省・まとめ
 - ④情報交換

III. 取組の工夫

- ◇一斉テストの実施及び情報共有
英検IBAを各校実施し、結果を共有

(富士中学校主任教諭 北沢 祐貴 記)

令和4年度
中英研事業報告

※印はオンライン

- 1 6月7日 役員会※
 - 役員組織等の確認
 - 年間事業計画の検討
 - 中英研定期総会に向けて
 - 役員会の日程について
 - 関ブロ等諸大会について他
- 2 6月15日から7月4日まで
定期総会
資料を地区幹事宛に発送し、ファクシミリにて承認を図った。
 - ① 令和3年度事業報告・決算報告
 - ② 令和3年度会計監査報告
 - ③ 新役員の承認
 - ④ 令和4年度行動目標の承認
 - ⑤ 年度事業計画・予算の承認
- 3 6月28日
第46回関東甲信地区中学校英語教育研究協議会群馬大会第1回理事研修会※
- 4 8月1日、8月4日 研究部
夏季ワークショップ※
- 5 8月19日 事業部
夏季ワークショップ※一部参集
於：千代田区立九段中等教育学校
- 6 8月22日 プロジェクトチーム部
夏季研修会※
- 7 8月23日 調査部
夏季ワークショップ※
- 8 9月26日 役員会※
 - 夏季ワークショップ等報告
 - 英語学芸大会の運営について
 - 各部の事業報告他
- 9 10月7日
第61回大都市公立中学校英語教育研究会連絡協議会神戸大会
※紙面及びオンライン開催
- 10 10月15日 出版部
「都中英研だより」第76号 発行
- 11 10月20日から11月20日まで 事業部
第75回東京都中学校英語学芸大会
(オンライン開催の部)
- 12 10月21日
第46回関東甲信地区中学校英語教育研究協議会群馬大会第2回理事研修会※
- 13 11月11日
第46回関東甲信地区中学校英語教育研究協議会群馬大会※
- 14 11月25日 役員会※
 - 中英研会報について
 - 各部の事業報告他

- 15 12月26日 事業部
第75回東京都中学校英語学芸大会
(集合開催の部)
於：かめありリリオホール

- 16 1月24日
令和4年度東京都教職員研修センター
教育課題研究発表会展示発表

- 17 2月14日 事業部
第37回授業力アップ研修会
於：千代田区立九段中等教育学校

- 18 2月17日 プロジェクトチーム部
(部内) 研究授業・研修会
於：西東京市立ひばりが丘中学校

- 19 2月21日 研究部
研究発表・研修会※

- 20 2月24日 役員会※
 - 令和4年度の活動のまとめ
 - 令和5年度事業計画について他

- 21 3月1日 出版部
「中英研会報」第81号 発行

(総務部長 板垣 繁 記)

東京都中学校英語教育研究会会則

第1章 総 則

- 第1条 本会は東京都中学校英語教育研究会と称する。
- 第2条 本会の事務所は会長指定の経理部長在籍校の所在地に置く。
- 第3条 本会は東京都中学校の英語教育関係者を会員とする。

第2章 目的及び事業

- 第4条 本会は中学校英語教育に関する事項を研究し、会員の識見の向上に努めると共に、英語教育の振興を図ることを目的とする。
- 第5条 本会は前条の目的を達成するために、次の事業を行う。
1. 各種研修会の開催（研修会、発表会、講演会等）
 2. 調査活動（コミュニケーションテストの作成とその分析、調査活動等）
 3. 研究活動（英語教育に関わる基礎的かつ実践的な課題等）
 4. 各種英語教育団体との連絡
 5. 機関誌発行、本会の目的達成に必要な事業

第3章 役員及び幹事

- 第6条 本会には次の役員および幹事をおく。
1. 会長1名
 2. 副会長若干名
 3. 部長各部ごと1名
 4. 副部長各部ごと若干名
 5. 会計監査2～3名
 6. 幹事各区、市ごとに1名
- 第7条 役員を選出は次のとおりとする。
1. 会長・副会長は役員会の推薦により、総会の承認を得なければならない。
 2. 部長・副部長は役員会の推薦により、会長が委嘱する。
 3. 会計監査は役員会の推薦により、会長が委嘱する。
- 第8条 役員の仕事は次のとおりとする。
1. 会長は本会を代表し、会務を総括する。
 2. 副会長は会長を補佐し、会長に事故あるときはその職務を代行すると共に、各部を分担する。
 3. 部長は担当副会長と協議の上、部会を招集し、会務を執行する。
 4. 幹事は本部と各地区との連絡にあたる。
 5. 事務局は総務部が担当し、事務局長は総務部長があたる。
 6. 会計監査は会計の監査を行い、その結果を総会に報告する。

第9条 役員の任期は1年とする。ただし再任を妨げない。

第10条 本会に相談役、参与及び顧問をおくことができる。

1. 相談役はOB会長及び副会長より、参与は現職校長より役員会の推薦により会長が委嘱する。
2. 顧問は英語科出身の指導主事より会長が委嘱する。

第4章 会 議

第11条 会議は次のとおりとする。

1. 総 会

毎年1回会長が招集し、会務の報告、役員的人事、予算、決算等を審議し、決定する。ただし、必要がある場合は臨時に開くことができる。

2. 役員会

会長・副会長・部長をもって構成し、必要に応じて副部長・会計監査を加え、会長の諮問機関とする。

3. 幹事会

役員・幹事をもって構成し、学期1回以上例会を開き、会務を執行する。

4. 部 会

[総務部] 庶務・会計・渉外及び他部に属さない事項の処理

[事業部] 会の年間計画・英語学芸会・研修会、その他会長より委嘱された事業の立案・計画・推進

[調査部] コミュニケーションテスト及び英語教育に関する調査の実施

[研究部] 語彙指導などの研究活動とその普及のための広報活動、研究発表会および公開授業の開催

[出版部] 中英研だより・会報などの発行

[プロジェクト・チーム部] 英語教育に関わる今日のかつ実践的な課題についての研究の推進

第5章 会 計

第12条 本会の会費は東京都中学校教育研究会よりの交付金をもってあてる。

第13条 本会の経費は会費およびその他の収入による。

第14条 本会の予算・決算は総会の承認を得なければならない。

第15条 本会の会計年度は毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

第6章 付 則

第16条 本会則は昭和60年4月1日より実施する。

第17条 本会則の変更は総会の承認を得なければならない。

第18条 細則は幹事会で定めることができる。

※改定 第5条2、3及び第11条4は平成17年5月19日より実施する。

※第2条及び第16条は平成30年5月10日より実施する。

令和4年度 東京都中学校英語教育研究会役員名簿

役名	氏名	所属校
会長	遠藤 哲也	葛飾区立新宿中学校
副会長	板垣 繁	葛飾区立金町中学校
〃	木内 苗津子	八王子市立打越中学校
〃	平岡 栄一	葛飾区立亀有中学校
〃	難波 浩明	足立区立第四中学校
〃	柳 歆子	大田区立雪谷中学校
〃	今本 由美子	立川市立立川第三中学校
〃	佐藤 順一	墨田区立吾嬬立花中学校
〃	大森 博	八王子市立第一中学校
〃	横山 達也	八王子市立第六中学校
担当副会長 兼総務部長	板垣 繁	葛飾区立金町中学校
経理部長	木内 苗津子	八王子市立打越中学校
副部長	星 正行	足立区立入谷南中学校
〃	小林 和代	葛飾区立新宿中学校
部員	赤田 洋一	江東区立大島中学校
〃	米岡 利昌	葛飾区立水元中学校
〃	池田 美咲	葛飾区立水元中学校
〃	平入 聡	葛飾区立金町中学校
〃	高山 翔	葛飾区立金町中学校
担当副会長	大森 博	八王子市立第一中学校
調査部長	荒川 高広	千代田区立九段中等教育学校
副部長	市川 拓治	福生市立福生第二中学校
〃	高瀬 ひとみ	東京都立白鷗高等学校・附属中学校
〃	加藤 真由子	調布市立第五中学校
部員	相澤 雄介	練馬区立光が丘第三中学校
〃	飯島 美樹	江東区立深川第二中学校
〃	石田 千尋	品川区立八潮学園
〃	遠藤 康子	練馬区立貫井中学校
〃	大木田 陽子	江東区立辰巳中学校
〃	大澤 陽子	国立市立国立第二中学校
〃	大竹 希依子	中野区立明和中学校
〃	上水 謙治	小平市立小平第五中学校
〃	榎野 真弓	中野区立第二中学校
〃	久保田 航	墨田区立墨田中学校
〃	黄 俐嘉	千代田区立九段中等教育学校

役名	氏名	所属校
部員	小山寛孝	町田市立南中学校
〃	斎藤基	日野市立日野第三中学校
〃	佐藤航	東大和市立第五中学校
〃	白井靖子	江東区立深川第八中学校
〃	柴野泰行	江東区立亀戸中学校
〃	島崎さやか	八王子市立第一中学校
〃	高橋翔太	多摩市立諏訪中学校
〃	田所毅	羽村市立羽村第一中学校
〃	丹生幸宣	西東京市立田無第四中学校
〃	坪内英津子	八王子市立四谷中学校
〃	永井剛	武蔵野市立第一中学校
〃	並木志織	日野市立日野第一中学校
〃	幡野洋子	日野市立大坂上中学校
〃	樋口はる菜	国立市立国立第一中学校
〃	星雄介	西東京市立田無第二中学校
〃	前田秋輔	東京都立桜修館中等教育学校
〃	松村祐輔	江戸川区立松江第五中学校
〃	丸山敬子	大田区立矢口中学校
〃	宮崎太樹	日野市立日野第一中学校
〃	山下郁子	日野市立大坂上中学校
担当副会長	平岡栄一	葛飾区立亀有中学校
事業部長	横山達也	八王子市立第六中学校
副部長	稲葉高広	町田市立鶴川中学校
〃	前川卓哉	国分寺市立第五中学校
〃	大屋剛	江東区立南砂中学校
〃	小山千景	葛飾区立双葉中学校
部員	相沢隆二	目黒区立目黒中央中学校
〃	宮野和子	小金井市立小金井第二中学校
〃	大竹希依子	中野区立明和中学校
〃	亀田洋斉	千代田区立九段中等教育学校
〃	川越智子	北区立飛鳥中学校
〃	小川史哲	八王子市立別所中学校
〃	宮内瞭	小金井市立小金井第一中学校
〃	山内正治	八王子市立川口中学校
〃	黄俐嘉	千代田区立九段中等教育学校
〃	川澄陽子	大田区立大森第六中学校

役名	氏名	所属校
部員	河野真由子	東京都立武蔵高等学校
〃	遠藤貴裕	町田市立鶴川中学校
〃	太田湖希	葛飾区立水元中学校
〃	田島大介	葛飾区立奥戸中学校
担当副会長	板垣繁	葛飾区立金町中学校
研究部長	溪内明	文京区立本郷台中学校
副部長	前田宏美	港区立港南中学校
〃	高杉達也	国立筑波大学附属中学校
〃	橋本晋作	渋谷区立松濤中学校
〃	水嶋諒	江東区立第四砂町中学校
部員	原田博子	文京区立第十中学校
〃	中川智子	大田区立志茂田中学校
〃	太田裕也	大田区立大森第八中学校
〃	三上健二郎	大田区立出雲中学校
〃	森沢俊彦	町田市立真行寺中学校
〃	島田拓	足立区立入谷南中学校
〃	松尾麻里恵	港区立三田中学校
〃	大島良一	江戸川区立篠崎第二中学校
〃	多田翔	江東区立第三砂町中学校
〃	福島恵子	清瀬市立清瀬第三中学校
〃	一ノ瀬麻子	港区立六本木中学校
〃	能美真弓	荒川区立第三中学校
〃	岡大佑	東京都立小石川中等教育学校
〃	長谷川眞司	江東区立砂町中学校
〃	川邊真梨子	武蔵野市立第二中学校
担当副会長 兼出版部長	今本由美子	立川市立立川第三中学校
副部長	溝口千里	板橋区立高島第二中学校
〃	當麻忠幸	西東京市立ひばりが丘中学校
部員	兼子容子	葛飾区立上平井中学校
〃	相澤史彦	練馬区立八坂中学校
〃	中井正弘	小平市立小平第一中学校
〃	梅田一行	練馬区立光が丘第二中学校
〃	福田貴音	豊島区立西池袋中学校
〃	鈴木咲子	清瀬市立清瀬第二中学校
〃	柳絵未	千代田区立九段中等教育学校
〃	岩田歩	調布市立第五中学校

あ と が き

ここに、令和4年度「中英研会報」第81号をお届けいたします。

本誌の発行に際しましては、上智大学 教授 和泉 伸一 先生をはじめ、多くのご執筆者の皆様にご協力いただきましたことに、心から御礼申し上げます。

また、「地区活動状況」ページの作成にあたりましては、各地区幹事の先生方には、ご多用の中、原稿の提出にご協力いただきありがとうございました。

今年度は、依然として感染症対策を取りながらではありますが、ここ数年中止やオンライン、規模縮小となっていた取組が少しずつ戻ってきました。また、コロナ禍で定着したオンライン方式と従来の集合方式を両立させた、ハイブリッドな部会やワークショップも行われるようになっていきます。「元に戻る」のではなく、「新しい形」にしていくことで、これまで会場が遠いなどの理由で参加しづらかったという先生方にも、気軽に都中英研の活動に参加していただける環境が整ってきているのではないかと思います。

現在、「中英研会報」は各校1冊の配布とさせていただいております。都中英研HPからも過去の会報を含めご覧いただけますので、どうぞご活用ください。

本誌が都内各中学校の英語科教員の情報共有の場となり、英語科教員相互の連携、都の中学校英語教育の一層の充実、発展のお役に立てればと願っております。

最後になりましたが、本誌の発行にあたりご支援を賜りました多くの先生方に感謝いたしますとともに、会員の皆様の一層のご活躍をお祈りいたします。

(都中英研出版部長 今本 由美子)

都中英研 HP・Facebook の URL と QR コード

都中英研 HP では、各部の活動や研修会等のお知らせがご覧いただけます。本誌「都中英研会報」の閲覧も可能です。また、Facebook では、利用者間相互のコミュニケーションも可能です。ぜひご活用ください。

<http://www.chueiken-tokyo.org/>

<https://www.facebook.com/chueiken.tokyo/>



都中英研 HP



Facebook

※Facebookはメタプラットフォーム社の登録商標です。

都中英研会報 第81号

令和5年3月1日印刷
令和5年3月1日発行

発行者 東京都中学校英語教育研究会

代表者 遠藤 哲也

発行所 東京都中学校英語教育研究会
東京都葛飾区立新宿中学校
東京都葛飾区新宿3-20-10
TEL03-3607-6201

印刷所 (株) オフィス・サンライズ
東京都大田区鵜の木2-6-5
TEL(03) 5741-3146